

溫知禁書

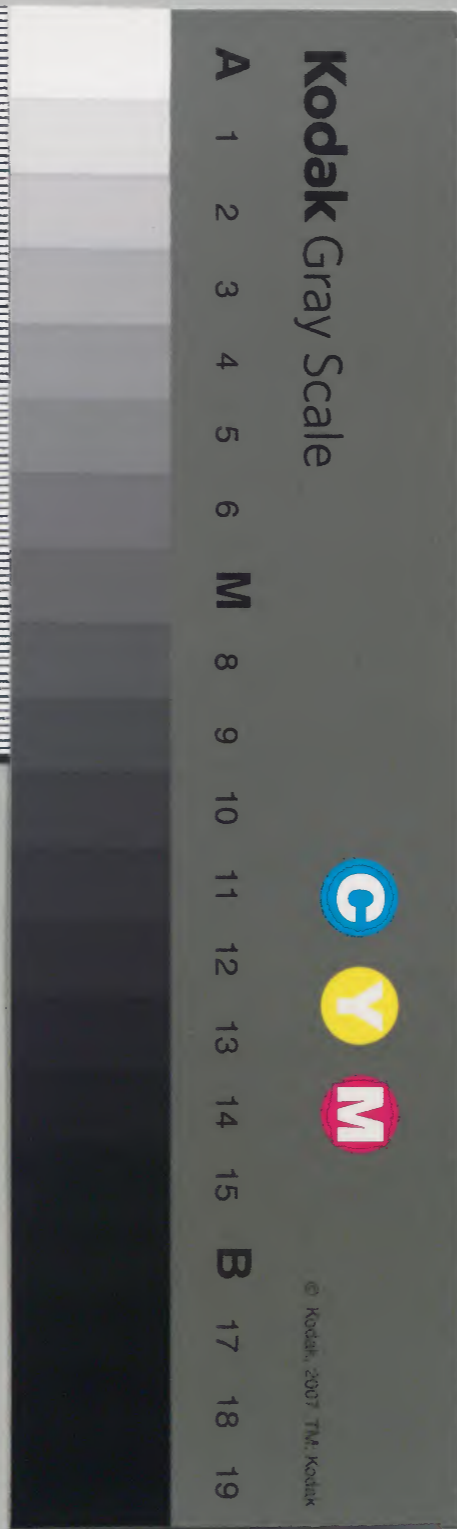
百十七六

西游記三之四五

和書門類	二九〇五二號	一〇三函	一二架	三冊
------	--------	------	-----	----

内閣文庫	二九〇五二號	三冊	二七函	和書類
------	--------	----	-----	-----

内閣文庫	番號	和 29052
	冊數	3 (2)
	函號	177 1156



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

西抄雜記卷之三

内一〇三〇九號

佐賀の北園の白柙城近の程子里堂のついでに定らぬ

山道瀨乃ありて道中次第に於て家戸次

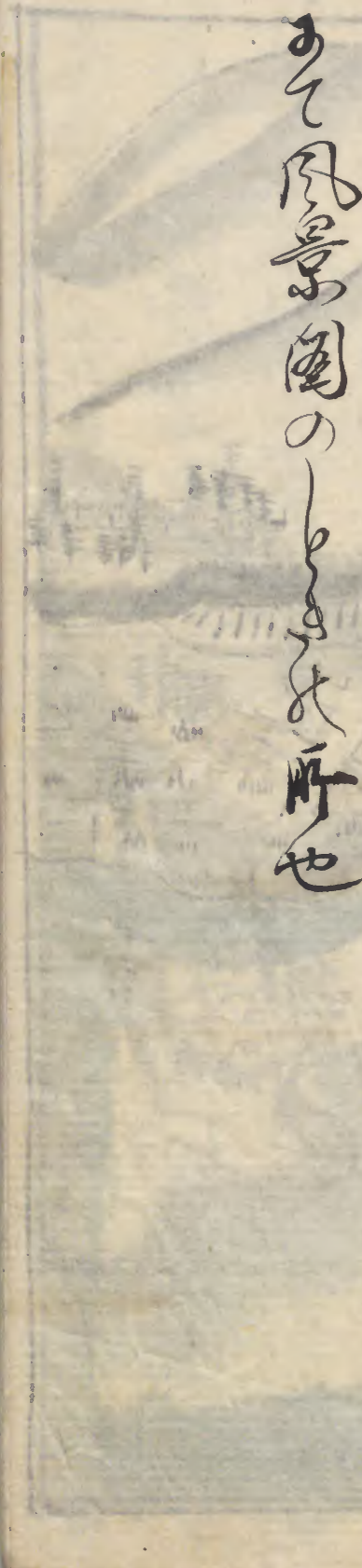
氏の新と云ふ白柙、諸言大反れ真鳥といひて

の裏跡たゞしひて又此の府内大反れ隠居城

を称す字麟後光後地西居城有しといふ

末詳山城といふとも曰ふに梁めりし記要害の城

ありて風景園のしるし也





本丸を海と石山とに城あり雅奴幸しえん
たし二丸を四方より中間養ひん様何とて海と
とて一城郭に出入す食らふ云の丸を浮舟とて敵乃
ちあまの山より時をわたりて事しつとす不是
その事も時をわたりて虚説なりと出人の物語り事
あり記意の人のあつても浮舟と稱する所論
有る伝へたる事なりとす其の事もあつた
言倫らるる事なり

世ふ玉皇合結といふ軍事その名の秘書なりとい書ハ諸州
の城を写し取し書し故より予此書書を推しの意其
以て小川合見といふ城内の事なり其の城は其の部
外山形城なりとありて甚能實也といふ所ありて
其の方角の取遠いといふたも遠いといふは其の城
を其の外に齧齧多し其の風景を寫し其の予軍學
たり其の事を知りて其の事なりと能く考ふるも其地
の四方に重なる里の間の地理を知りて其の事なり
其の切込ありて西の方あり其の城の故より南より川あり
直道あり其の曲り間道あり其の海は淺深なり
浪波は海庭の岩あり九州ありりヨトをよと考ふ所ありり下
に奥州松前をいりりありり

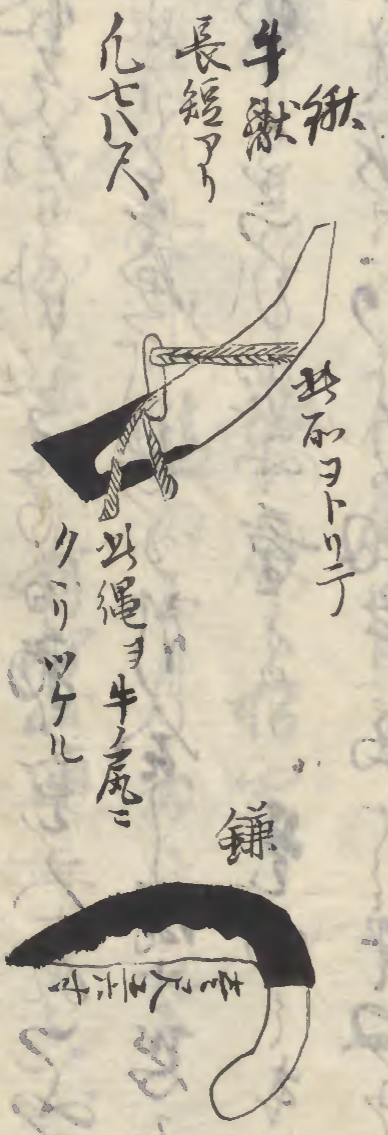
有石石の事也

ふかり あり何の風子を取裁ふ何の風子を
何れかやふ事と化しあふまらむ時んを
少くも益とも成ゆを以當せり軍學地理の事
多端也城郭の縄張洵まの台戦場の地圖を以
るの流を云のくあり古語を云は地理を地
の解及地の理人の和を中^及ふ和をひる事
天統なるやまはむあつたの事あり編^及地理
のりり自見とれり大輒を知らず予軍學
志と能する人其家か^及て會^及地理のり代
し地理のりを編する人の^及て^及對面を以實

乃軍學志終定て智^及道^及れい^及た^及る
し七書に畫の編せしして北越流甲州流を
城^及す^及調^及子^及と^及て^及る^及を^及圖^及合^及後^及の^及書^及信^及代
何れ^及て^及は^及る^及也

的^及梓^及以^及桂^及寺^及多^及福^及寺^及何^及も^及禪^及宗^及子^及記^及古^及海^及不^及た
多^及福^及寺^及ら^及多^及佛^及刹^及と^及稱^及古^及ら^及字^及を^及あ^及は^及是^及日^及本^及可
の佛刹を以字と^及る^及事^及を^及け^及せ^及あ^及は^及摸^及難^及を^及除^及
死^及して^及無^及極^及系^及海^及を^及記^及述^及の^及ゆ^及り^及切^及り^及と^及九^及引
を^及記^及釋^及爲^及し^及ら^及ゆ^及ま^及る^及事^及那^及解^及た^及か^及ら^及ず
字^及の^及事^及や

白井とあるは、
 宿共道の七葉を數百年も、
 とも他物とありて、
 甲もともす、
 一人もた、
 一、
 中、
 反、
 の、
 見、
 と、
 只、
 七、



甚く不潔光見えたる人たをふまに斬りてのめて
鎌を不そわしけにえざる物とて人たをふまに
とる阿比とて海に流す行合し時を忍ぶ事
才も那もつひに小童も 是のこもひ別し
物なれとてあつらん相半島とて半ぬきて流し
の夜ひ合あつる事つらふになきも何道の人
まじりて

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

白井の岡城を十二里の山より西南にありて
日向をふりてさき薩摩申周ありて豊后の
界より日向海流とて阿比を薩州麻里流とて曲道百
里あり人の物語あり

此の海ありて各川海ありて五月廿八日の夜を
取らば其ありてありてあり

海ありて海ありて海ありて海ありて海ありて
海ありて海ありて海ありて海ありて海ありて

那津の市よりふも其の有智山通津寺とて大海に傳て
侍の思ふ古くつせ塔伽羅の大寺ありて跡なり

百智山蓮城寺



長三千里

此所今畑也

紀堂

棋待所

此寺は天竺杖僧蓮城上人の開基あり其の長者は建三伊古
 たり心寺の寺ありて三輪地といひ傳ふ 用明天皇の御宇
 此所に其の長者より蓮城家ありて建三也一軒有る
 年の古跡ありて一み云長三其地ありて
 用明天皇は蓮城といひ傳ひ一書ありて長三其家
 蓮城ありし書跡なる可く蓮城記に記しありし
 くと云く安の略し此所を日名の國界を一里
 中より南に五里ありしと伝傳物傳に記
 六月朔日因事あり
 上人新田云
 昔城平中川侯の長城

豊後國
岡城之
略圖

至
半甲
口
江
往
田



市中

又又七川

園城寺竹園竹園 兼兼又又一一檢城檢城の眼と名をわす
 海月之檢城の實と存存るもひりぬり其山を初めふ
 玉尾玉尾の石もひりぬり其山を初めふ
 下か海り初めとのありあき少くもくもも権名権名柵も
 ありとも細工自由自由の定定幕を初橋初橋たありしり
 のの池川と稱しては少きなりとも初水初水庭も庭も皆
 一ぬめりありてまきまき其れを初物なる水の志を
 してありはありてひりぬり其山を初めふ
 し思思ちす厚く削りて初我とすも馬之橋馬之橋たもき
 ありて海見ありて水と名をわすり削り山山れ也也新樹
 竹杯竹杯れ生えたり一初めえ一豆種研豆種研のあき庭もありて橋
 の場ふ新削りて見一ありてりも七曲の坂とて檢城なる
 事多き壁と名をわすり一人万卒と制するといふ其終か
 石のまなりとてありては初水と名をわすり南ふ初水城門に
 のり者擅自然石を刻し物あり馬なるもの往來しつぬ
 うんとありし事かありて初水と名をわすり初水と名を
 乃初水と名をわすり初水と名をわすり初水と名をわすり
 の目も檢城と名をわすり初水と名をわすり初水と名をわすり
 二十町ありぬる池もあり粟稗粟稗まきびの地地もありぬる
 云ふ山れ也に初水と名をわすり初水と名をわすり初水と名をわすり

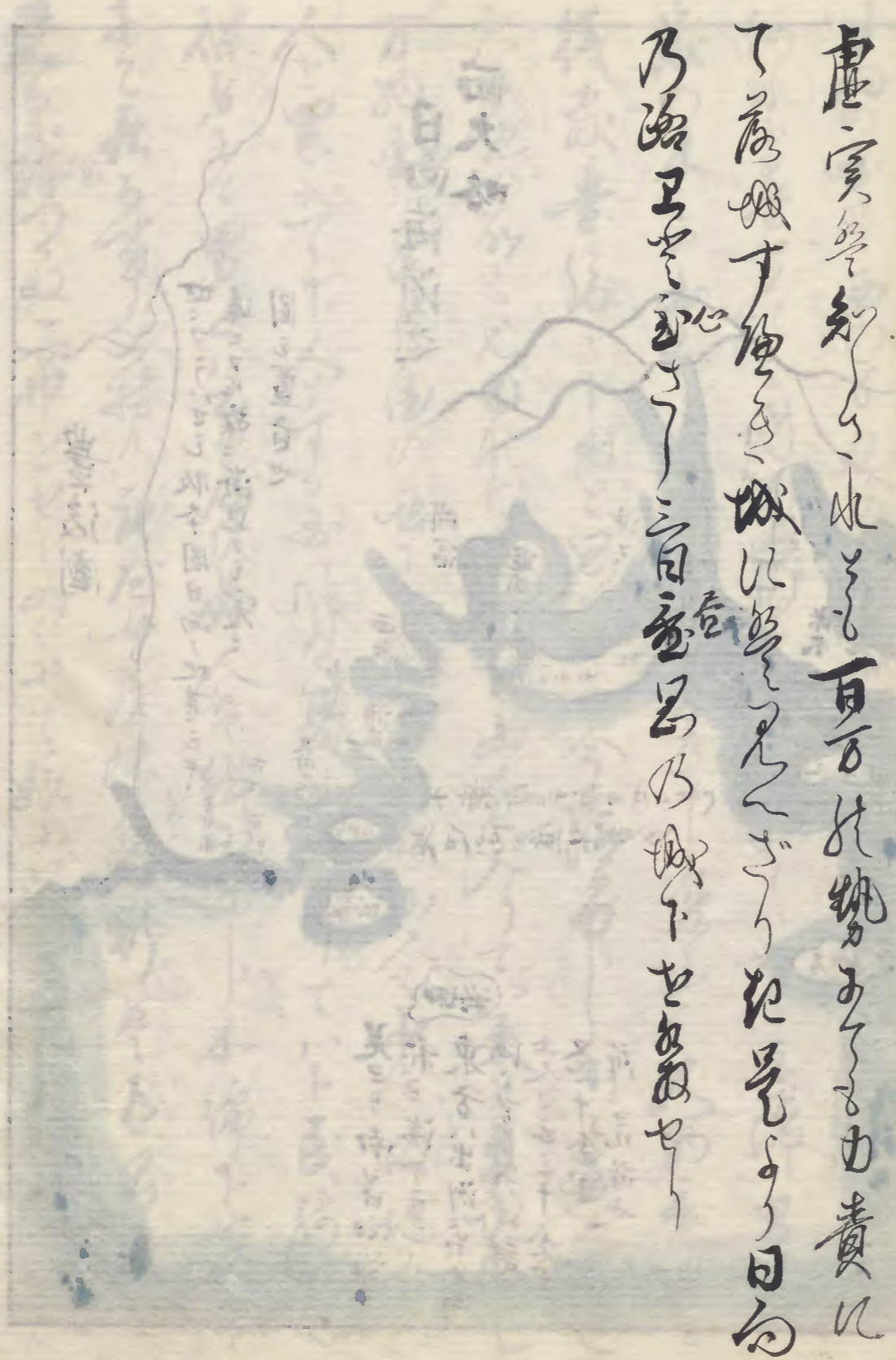
事法被く人語き終人必其家宅無山乃
曠開て居處せしめ外又無山城ありけり
又多むとて老人に成りていふ所行つて
ふしきお見ふ様之断無大繁よ此町中と
法不自
由の城下之是無四百里其る商所一ヶ所も
ありあらず此城下なると冬積ひありけり
何れも
是なきふに商人のたるとも無き見えけり
寺
院も數多見え侍り也

た名も流る川谷川の安り法川の川なり
其内
茂知しこれ多ぬむけりぬ川之國盡し
終一流の川城
乃上にて二つあり城の下にて所合ふ
やふ國一あり
其水と多ふありて流るぬく豊後
の名産に榎の葉
菓と稱する菓多は川ありて取事
少く味ひ佳あり
上り方節ふ云終のふなるもの
之斷ありて名のかき
の之能附知う那美の終あり
希ぬ川之國の如く
いふ山あり平地ありて山の頂あり
平地なるふていふ
にふ平地ありて希あり

は名を墳墓の所と見えし山の中
途を穴墓の如く
穿りて九十九ありて百ありぬ
は内子死骸を葬りて墓
と建しありて數百ありともう
こも形ありて板に

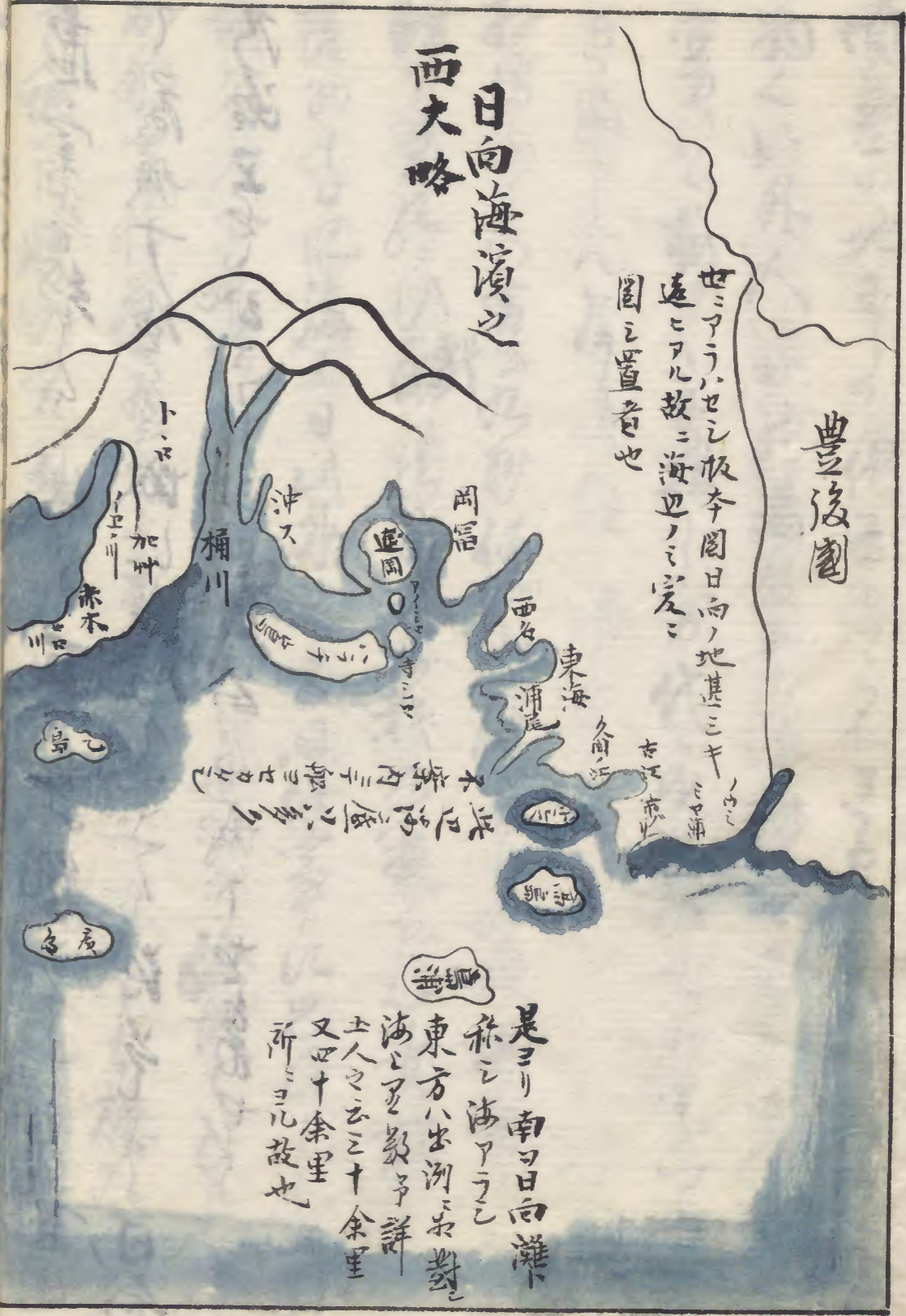
墳墓の地中へ他玉ありて見しる事取の書かくる
物に於外人の計湯放書後物をもて山を託と
寫りて物々ありて一方代に較ちのものありて
とありんたり

お傳の書方云わ河征代の時ありの地地圖の地
理と見たり戯に於て一我ら事とひ責取人に
薩西十日肥後五日は外無之日は事以てひ一地圖
城代又て多河船とりかへせし事檢城もひこれ
か那等稱言ありて出入を傳つて今も旅人あり
て城自標の言云ありて其の説の概とひとあり
虚言等知らるる事も百方其物ありて由責に
て是れす御も城に於て是れざりたり是れ一日向
乃西王を心とて一自説を公乃城下とあり



豊後國

世ニアラハセシ故本國日向ノ地其ニキ
 遠ニアル故ニ海也ノミ定ニ
 圖ニ置者也



日向海濱之西大略

是ヨリ南ヨリ日向灘
 称ニ海アラシ
 東方ハ出洲ヲ對
 海ニ至數千詳
 土人ニ云云三十餘里
 又四十餘里
 所ニ凡故也

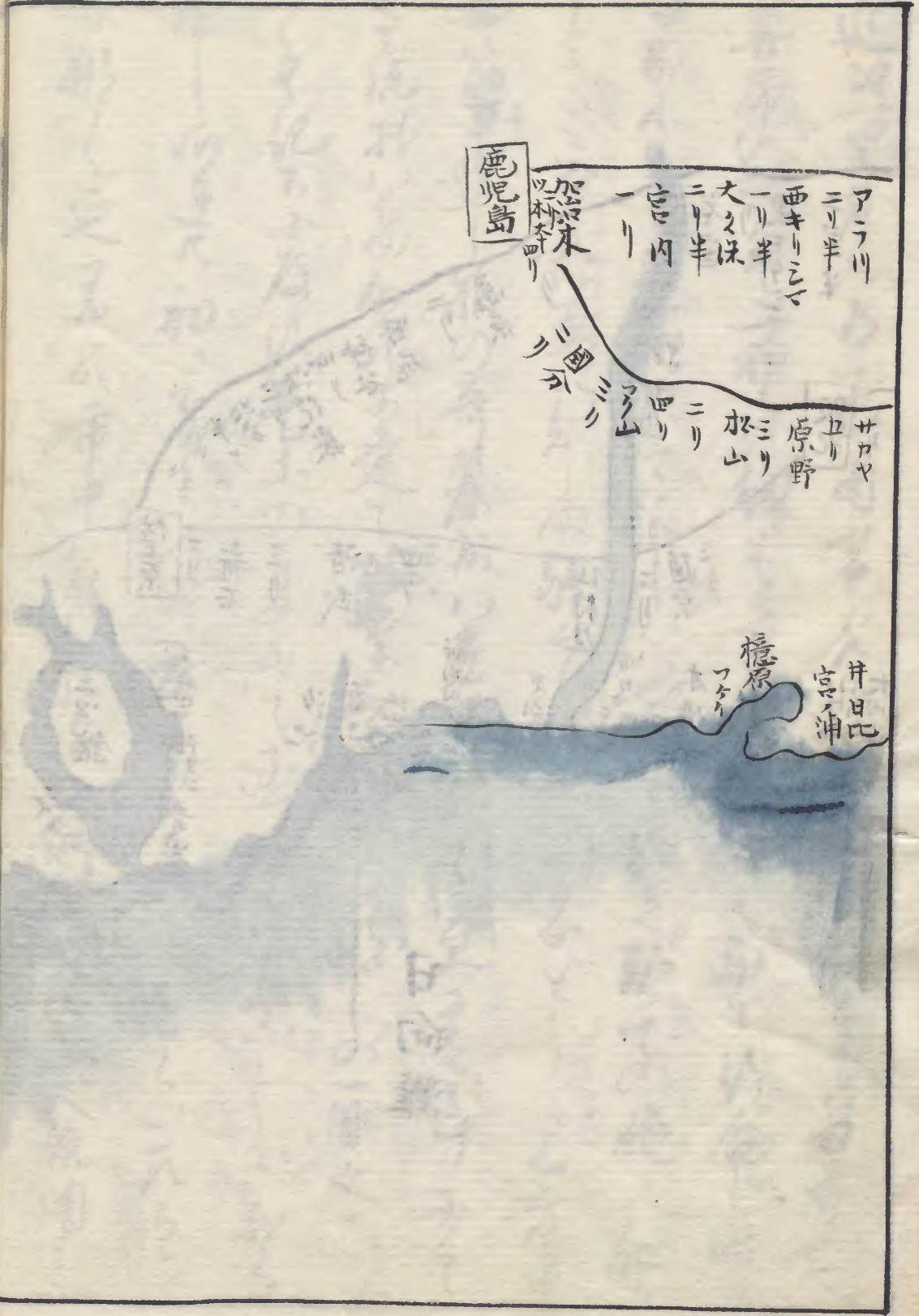
日向の地西の方北海の界遠徳山木りかろり國人
 何れある身はつてこの國の境を知り去りし世も之際一里北
 後のまゝ山と云はれ云はれ徳も一里と云はれ人ぬ云語も
 後教書後と云國と云ひ今一里方りしと云はれ海と
 此平地の所も又此北西の言山分りて更此事地那し
 万物動て不自由の云あり國不わ意の今去り故代云の
 人を買てて人もすも風を復月雪りてはト民族那く
 裸もあそ男もいふも女も人等緝不潔ト本綿ト草斗
 ちをたらし事之つ村の正女を採形等むらるあそ
 見え居つぬと云はれしやのこふて娘お見をむらる近も裸も

近江一里斗もたは之由事なるて少少裸きて毎葉に又
 鼻奉入村を二布は細きものなりとて之を命の時
 日那水ざる所故にそ評しくあひし終之故ての地入信
 一と云ふに及に知ぬ所之家凡の二家としてと方中
 西の地建し旅の奇麗成りてとて終ていふまきりみり
 高尾神のあかけの建て^壁もなき殿を那の二間くあつ
 一と記するは是木のまきりて此風成事なりと知る
 倉一の地た初と云ふく入終て土まて城下をくつたに
 も好く定むるは市中に能くを所を法不大概潤ふ



日向灘

憶原之圖

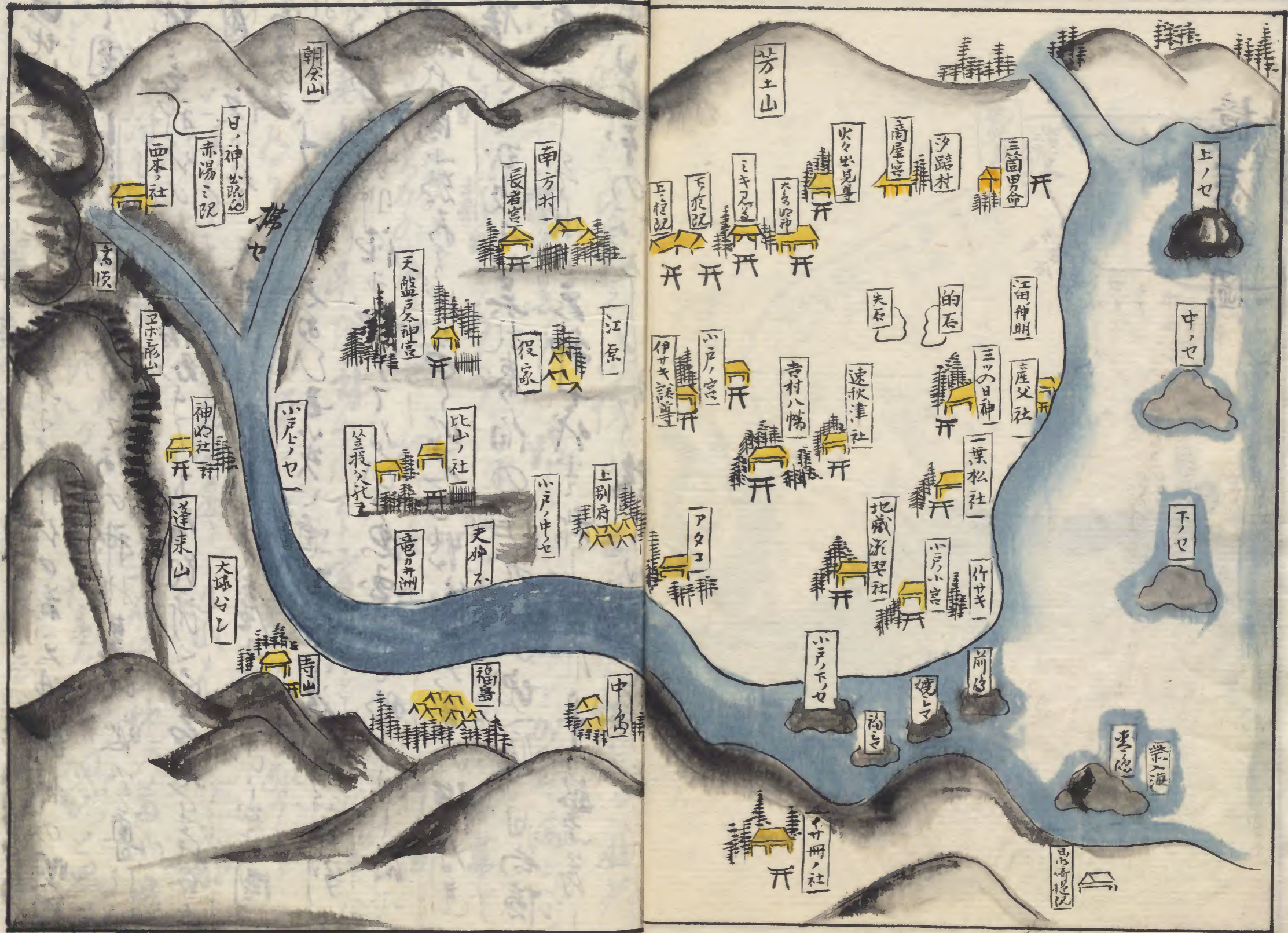


鹿兒島

アノ川
ニリ半
西キリニマ
一リ半
大ニハ
ニリ半
一宮内

川
山
原野
サカヤ
井日比
宮浦

憶原
フケイ



朝倉山

日ノ神出陣

赤湯之院

西米ノ社

高頂

石ノ山

神ノ社

蓬来山

大塚台

寺山

福島

中ノ島

芳土山

火々出見堂

高屋宮

汐路村

三箇男命

上ノ院

下ノ院

ミキノ宮

大石

上ノ院

江原

役家

天盤豆太神堂

比山ノ社

比良投父托

小戸ノ中セ

上別府

天妙石

竜ノ井洲

小戸ノ宮

伊サテノ宮

寺村八幡

速秋津社

失石

的ノ石

江田神明

三ツノ日神

産父社

一葉松社

北藏次翠社

小戸ノ宮

竹サキ

アタゴ

小戸ノ下セ

海ノ宮

鏡ノマ

前ノ島

寺ノ島

崇ノ海

上ノセ

中ノセ

下ノセ

馬場橋

寺ノ島

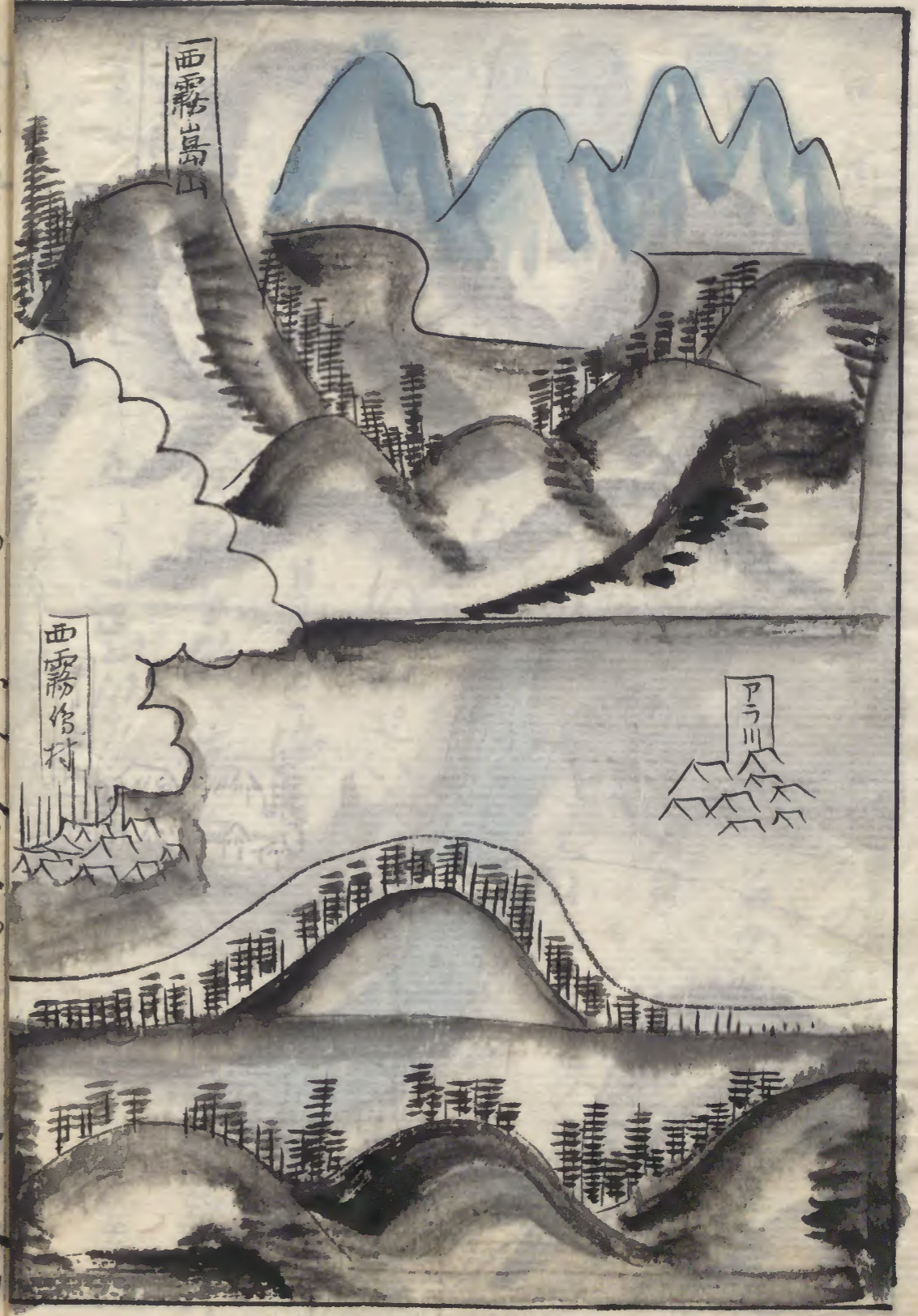
此地日本記も記一有標後承りて神代の都云神代神の由記
 丁園のしふ社数多し何の神代是跡彼乃尊代四
 地云神代のむ一語かしりもな記所之白を云生代古史
 通の後承り 天照神も是方其産ありと云む此國の
 當座の玉 舟し儀ひ志のひ七歳七道と伝し 清ひ一ふ九列と
 伝ふるは神代和してなひ一思云氏も形しり一節ふ此
 日向國ふ形ありけるや一以え物物儀の大儒の後承り
 推し一或後承り吳北秦伯のす一列の地一阪一日向橋
 東の巨一水と云神七代也形一それ一節承り
 我れ此ののり一と一傳一承り一と一承り一と一承り
 此云物一終る物ありの後承り 也と云古怪伝と好見
 るにか一と一終る物ありの後承り 也と云古怪伝と好見
 一記一難承りもなる一予 按らる一以日本乃古書也
 形一も一と一終る物ありの後承り 也と云古怪伝と好見
 て傳書も形一是或司のれ一実録もなる水神代
 のり終る一と一終る物ありの後承り 也と云古怪伝と好見
 か一め一何一と一終る物ありの後承り 也と云古怪伝と好見
 か一記傳も形一是或司のれ一実録もなる水神代
 地も形一是或司のれ一実録もなる水神代
 傳りぬ國一と一終る物ありの後承り 也と云古怪伝と好見

有口の内をくまへし云物お火々おえのさげ海釣代
 志持ひしおけ魚釣計と取し魚あつらゝの内赤しと云他
 玉はるまゝ其の事記るゝの事人^{予末}祥上のせ申れ
 セトのせとふ事大坂若みそ川の申おふそとの瀬中乃
 瀬下の瀬と云海と申るより小形其の川の若田おきて
 一石さふ海面川上山への志せい凡二里^{三十一}なる海一信
 しかる記事於りゝ其まくと漁あけしと云るを及ぬれ
 記をく其外神代の説なる故、姥島物後手物石龍舟
 瀬室らふ正のむゝかゝり志承なりしと事あて及物
 浪の説乃りとて傳もなる事あは略し也



東霧嶋山

キリ島村



霧岩山にありて其後山より出谷餘但ありてと云く人稱
 あり山奥北谷の末の山に横き南に陽を跨り数十里に
 連り山之なる山と稱しかくて地廣くそのなる處を
 北當山踏踏の本敷を系し其花のひき谷に寄り
 狸の纏まり包し如く山に南を赤く纏り夕日に光りて
 ありてなる丸行ありて人方形に春の空とてそ
 水より流るる形にて山に北踏踏を基近も咲谷
 けり上方より流るる流踏踏と稱するつとどのも
 北山に流るる流ありて是亦しつとともて地の
 けりしつとともてや當山の踏踏の是を流るる

能く歌す處き物より東に霧多村と西に霧多
村と曲道と云なりとも凡に凡六里余北に在る
霧多山あり谷に葉と白りて山村多し地名も此
村名かこるこころも想ふ多しなり信こふ海内世代
人の思ふと案外ありて中華もありて芥くさるり
廣く取事ありてかゝる山もなりの相は山奥徳祖乃
家神代も建結ひて天に送降と称する數丈此降
巖石の上は送降に建りぬ神代の文字ありて詔
を彫りてありてふりさるりなり事なりと誰き人
手折りて見しと志ありてなり京師橋石見
ふりて人^{伊勢}取行りて此地なり送降の建りたる
家ありて見しと云ぬ此地記りて予是代見えぬ
人家茂難く書しお修平谷なりまよと執りて
原若し此地を谷の燧宮かといふなりと道なりと
こり送降もたつ母の志を傳ふ此の名の志を傳ふ
しりふもたつて此の地なりと云ふ葉内なりと
傳し人等今一里半と云ふなりと云ふ氣
傳し是代此地なりと云ふ人等其地傳せ若見し物
一人伝しと云ふ此の取のつらに取行りて送降の事
をまよと云ふなりと云ふ此の道山も取らるる

かゝる事は上、教は法神の靈一も物なる端杯の事
等山にええつらに鉄板や洞板やまのつら其不
まゝ是非のくもま我道くま神徳友人と打
は道命のひし林麓の里へ下しと記したる事もある
志國とわが村に居るにわしりとも霧崎何れは家
一里先の家おひて神のまをぞぞしに昔村に神は
なるといふ人く云傳はる事なるも人家とま那
れ山に谷のわも那もふのま及み諸一人も道
筋と知る者も那もまを神人いふ人たり厚き
ふも何しこれ多し其由を我知るも不疑て我等行
て道神とえしや云者多し傳へたとの事く予按
に其神ののる事建量しと云程も那も夫うふ
一其まところれなるもまを法ひしとまのるも
神代もやま敷上の神と人も通じ思ふ石のこまを
まの理も那も一関羽り書能のの神なりもたひは神
代の人う用ひ何人のまを代傳へたもま不似像石なる
也し遺物たりたてて、若もまも似像の物なるも
なりそれ以後とまをそ好事家の奇談とな
りまも世傳へしもの那も
山人秘しと語る事、何れ地中なりやまもそと霧

金山の洋の書と尋といふ事人々多し河と云ふ人
や那ー是は依て遠くぬ國の守洞を以て數正の洋
と稱し數人を集て此に之のそ此の始と稱す此山
奥の人もかゝるかまの嶺山の峯に建つては是
代て見ゆまゝさしやま道も深し難ぶち七里半も
分のさ水にえ成りて一穴かゝる新に作らぬ
一杯といふり我よりすしと人に語り終ふ所
といふを免して物語り記し事多し道中人を啓
るべき事人れ思免らるゝ家に記せらるも其く
薩摩藩に候介に入門に是國所に於て是物
代取え也事多し并して金子こ分りてりも新持也
と水も國所との水は是等事多し病にあら病
疾に何れ國所乃物にあら思月心等見えたり
予其まて見等通す此旅人を指く也も見え事
も思やれ思も及らぬ後には予一節の備行
たれもとせり一國所あり一夜にあらして壽人乃
皆にあらりてあくも此も此其後文とてん
左の通すはわら一切の海に是を其の形
代法を年事ありて是を河月何日何故に止る也
し事不也其代もて通す海と云海也

まゝくも書付の字

免

一年何十何年

一及その内の本号地籍号を外何

一金子何兩

右に新撰文諸帳振替系水引新田子庶民帳編昌寺
園分寺正八幡旁修山二十一初經文為奉納帳白
當御番所に来り小舟改定元小紋一名今
日午刻為之着紙小糸御領分申上も去序道
一經文奉納帳所につてを定まり其新より無油
以向國て其申付り候

何月何日

何々何々

此書付 何々事申上

此書付と上名也人々別ふ所にて以て年々村役人の書一宅に

以て其書也を年々村役人の書一宅に以て年々申上

其人之書付 并旅人の在りとも見面無別系

付為御領後之振替為申上之為今己の

別家元之書付之振替為申上之為今己の

何月何日

何々何々

西家何々年何々申

石の通に止る一過行す國法なるも終
りて成るに時節ある事と云ひれども
とて以後方へ見ゆて幾日あるも玉申の節
一と書所なるるを石の書付と書人の後
玉とあるま

今西の昔時と書遠ひて他西志の薩列
事いふまゝに洞山金平の孫外郎
て大教養人たりて日摩あせりわ
あま念ふくつて其山法斗りて人改
も海軍なるか好はるまゝと書ふと
子流の通一と書く

相藩の侯の願分たりては名はるる自由
せしむる可^場に各旅人各書す中ありて
門下旅人各書記一と文字は看極とあり
今一と六部の本後十部文あり無^能氣なり
止るは各書く名に取らるる也四文あり
無^能ありは終りては志あり十二残の本
あり自ら念事や個へて水終る宿は志あり
ありしと焼本と燭を添へ海にのり人達
ありありと申し氣をえりありとあり

家との外きひひりく浪報のかるや
も那く安氣成し旅中く薩河之見の志
いへん人々他邦去の群る旅しそんれ
るあり人々記しをなす

六月朔日豊後路の日向に下り山坂多き下りて
あり今其事ありし屈^情惜やしと後くのまひて
いそのかき遠^本不^本乃のそ方外や一事なりし
水と七百に大湯ありし人共も日向を同し風土
て上方の物中玉物にらるる毎てそ何とそ人なり
て下玉ありて人物を供賤や法不自由く大湯

無く東南狭く南地長き山國にて東を日向西を
薩摩南を海と多なりしと肥後の水磨船近入
て玉之國中にこしと一遊了る海と海との凡京の
地を不田海も那く廉兒修の風俗日も果く見海は
しと乃と志て昨日か海不托所に至りて止るや
不終外城に稱して土家ん之白鳥斗船つと乃
町あり高家ありしとにそ大湯ありて冬一伏市
中より云ふ人老く肥後之町乃た薩摩候水一代あり
爲其乃と道通りありて山系勲とを云ふ日外
海と下りありて土家女百新茶も在宅の武也

けりとも薩の界と大隅境をて再い薩摩の
山阿のこふふに番所出て此後の久木野村へ出る
なり

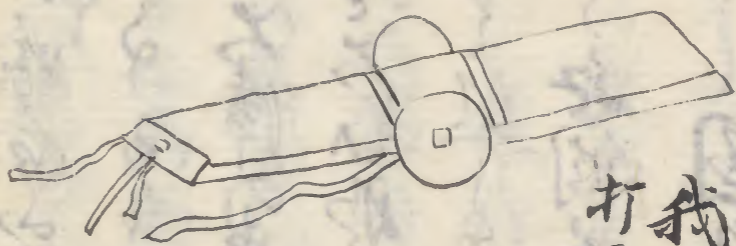
此乃物事近きこと難所の故申して
通行ならぬとめられたる

日向大隅の二州を過りて多岐に如馬と定む止り細く
駒戎数多おにぬく九列す海をぬく國の駒と因り
る事之兩ふりて一年毎に千のりてんをゆるぎお人の渡り
ま、予緋あふに馬駒と定む戎えらに馬率に男子
を多し人少く婦人の多く一人してあはせも七也も
一綱を過るりなるる等々馬の云ぬりて
い合命をともやにぬぬ馬と男子の多し牛戎は
りふりて山谷の我本と牛を引おひ事く牛は
右甘大津の車牛はと一丸切の此車のことにて
ほとりいぬる我本もともふや色及た徳し
ともいひて牛に引りてるまゝとぬれとぬる云ひ
りて此調法なる事なる利

國に祀一ぬ

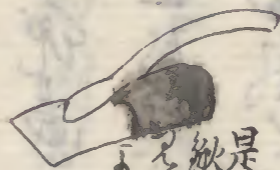
西遊雜記卷之四

加治木より取本浦へ平地の乃二里ある舟渡の川あり
大隅薩摩の界川と云ふ所あり百歩をくれば渙原町
あり又昔は名所煙草ありてむらふ所に五府村
ありて僅か村なりとも此村の煙草薩摩の大隅の
煙草所と稱し他處に於て兩國の間にありて葉粒
の物名をよき所あり村に煙草ありて一月の
儉くは白子の地を以て廉見ゆき曲道は程遠
薩摩の國の謙倉時代の風俗ありて武官各
士士の法あり

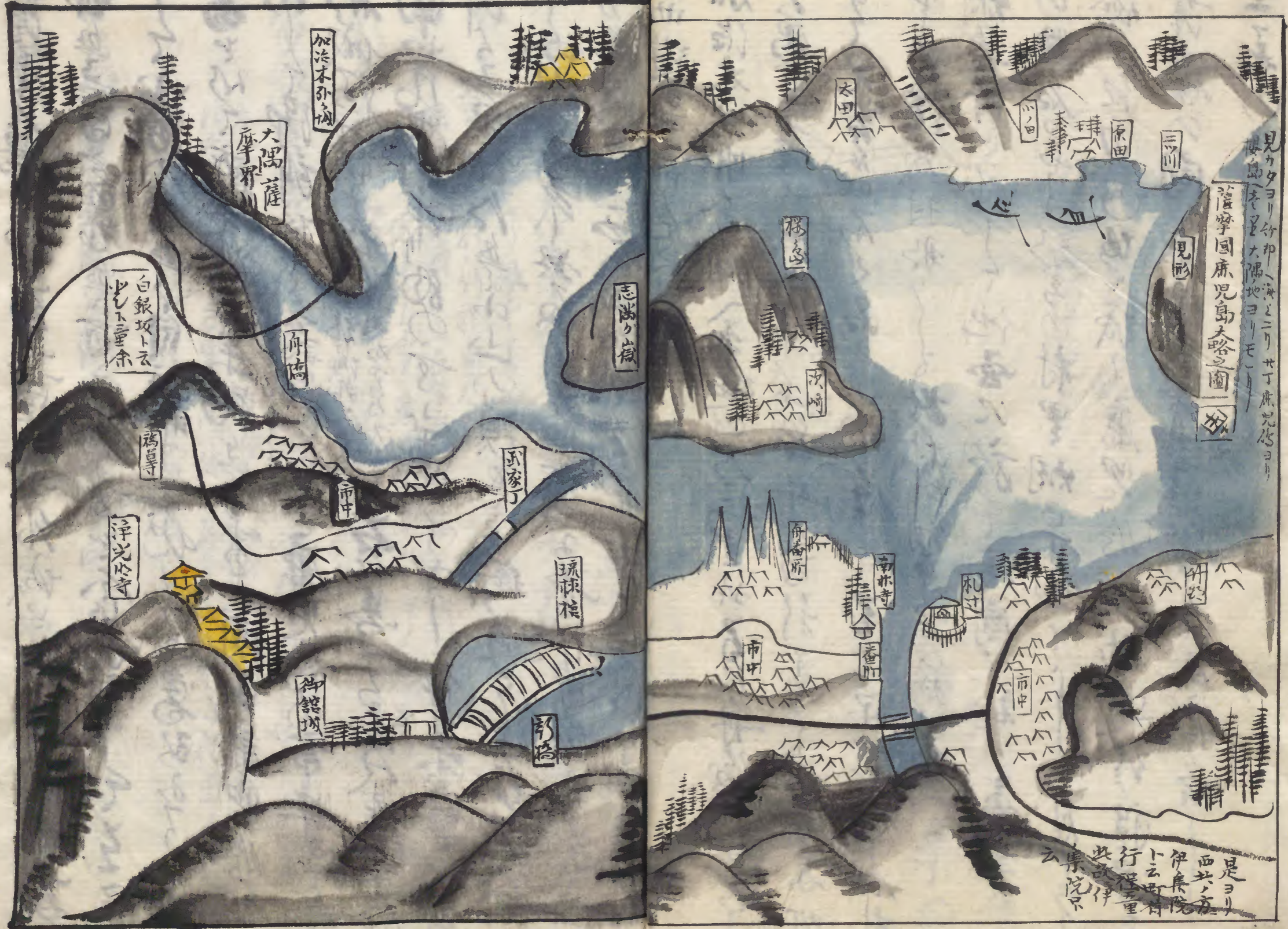


井
我木ノカシラニ釣ヲ
打テ吏網ヲツテアリ

此網ヲ牛ノ尻
敷糸テ引スナリ



是ヨリイヤラシ
糸と云ふ他國に
その網と云ふ地
ありてあり



見カタヨリ分抑、海ニニリ、サ丁麻兒島ヨリ、
 櫻島(志)大隅地ヨリモ、

薩摩國麻兒島大略之圖

是ヨリ西共ニ行クニ伊集院ト云其行路云

薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家
或は二百家百廿余地方と云はれしと左
と云はれしと云々自耕を地々書みしと月
高と云はれしと云々勤王の事と云はれしと月
少くは所所無き云々 吾らも云々
新成河可き作は 新成河外領文字
南の凡そ下斗の所の字と云はれしと云々
新成河の市中にて
少くは所所無き云々 吾らも云々
新成河の市中にて
少くは所所無き云々 吾らも云々
新成河の市中にて
少くは所所無き云々 吾らも云々

予未詳 薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家

冬儉も坂乃多しと云はれしと云々
和 薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家

薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家
和 薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家
和 薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家
和 薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家
和 薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家
和 薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家
和 薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家
和 薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家
和 薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家
和 薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家

昔時秀吉公其國を征し終ひし時に紀伊のお水以上
の中は薩摩の隅の二郷は百廿余外城と稱して二百家

薩摩軍とみゆく一ととも方軍共勢ひは
 少くは薩摩家陣並に及び事く秀吉と吏う
 薩見物と少見たりて大隅共地ありては其白銀
 地と小畑行たりは時傳傳事の後伊集院行集幸人岩
 石の間隠伝て鉄砲と秋秀吉と打籠とも阿々一
 伊集院も逃のり今伊集院行集れ思ひ病一岩
 我隠し岩一和く白銀地の地中よりなる是
 薩見物とのり海ものもいみじくとも大隅乃伊集
 院口大隅口今一と年回たて幸 移傳多々大隅薩摩
 乃中興よりて小なる人の傳あり山と志海に山獄といふ
 林業多しなること取由一漢村敷多あり昔時多々松樹敷
 子なりては名を言ひ其なり以て後傳を移伝國守
 乃此名傳も有く此の地者傳而安と取と此書は略せり外に名なき
 安永八亥年九月朔の地ととも海庭なりて潮鼎の
 浦りしととも多りなり浦へ入るに船りて漢舟
 ありて地と海と名なりふ海庭なる圃と吹河らるる強
 了舟名や字と名ありてはこれなりと名々々自
 とすり内志海嶽の頂よりなり柳名を名せしと燃あり
 而びて一とや字の漢村と理と名百余年なりと名
 百と中の人伝はる者百余人薩見傳を助ととも家の

濱浦の人多し二里進みたり人形 市橋浦の徳史三四人
少くは其物状例

世目平強く勝つて平後多期斗とて今の如く

正長海危より七段あると云ふ事なる所七十六なる

其間廿丁ある事一町一町年々此の如く成と浦人

乃後り

廢帝宝字八年二種氣アリ下懸へ此等續日平記に見之

此の如く押取入海の眺る勝景此地人古より

丹を乃なる免の如く其様作

浪の花より夕ひり流る

三言集系多花の寺に之るい少くは其并あり此流ゆか
様作と云ふ水等風下流より何の時乃其の守はて
と有りらん

浦の富士宮平傳えの園形と云

次海のりく事之は忠杉京

此外古より略也

寺院数多し中より神昌禪寺と号する事石屋

禪師の開基國の中代く御墳墓此地ありて古寺

以て寺領を石寄附ありて昔時ありて此數百年

もふし古海と見え御墓なる事此をたたりて之

禪堂 法堂にともの額を獅子吼とあり額字古く専ら

見えに見え事ふ見えたりしと天井に九龍の西将野
探せり事久客殿少百^二百^三後記に見て大額成り
けり覺皇宝殿を記し平堂に額あり勅詔あり
堂斗有り祇師堂あり智日堂あり寂堂あり側
石屋禪師の徳をいげり碑石建ッ大いなる碑あり
甚急亀の細く並びて生るがや一山の岩間より龍と成
て龍の口より水と吐あやむ細工月と露り二五つ
前ハ大いなる蓮地あり橋あり傍に立つ橋の碑に
碑あり文章ありて古くあゆるありしと此地に就修
佛法に為依せり夏跡と記せり碑と云

南林禪寺に諸方け寺多石屋禪師の同基あり國
守れり墳墓ありて寺ありあり言ふ共寺多徳堂瓦ありて
諸佛あり見えり平堂あり黄磧悦山の草ありて南林を
大文字に額ありては見えり禪堂あり華人の草
あり木半窟に記し山門の額あり松原山とあり河ぬ
寺に二五代見えり石佛あり袖云石の窟ありなる故
寺あり寺あり小寺ありてあり

豊後くは道ありて町場ありて南を築教寺
記せり石を建てるまくりありありしと
建てるゆゑ土人尋常に徳病除のま
として世を尋るものありしと云ひしありし
ありし

琉球龍を二見せし門番ありて四のちり年と林せり凡百
人斗多麻兒の海に居て琉球の産物と賣買し
又多交易をすらるる何れも日本の云葉と七八方も多し
云云田舎よりと京へ賣りて法藝をりるは琉球人
多麻兒の海に居りて覺文より徳義をりるは
て和舟もよみり海も見り琉球人たりる事あり
天宮多有髪より少量の髪は法に居りて何れも
げ中へ并とありて長く之衣を日本に居りて
れや一義式み并の節多ありの冠衣服も有
る一石多半生衣なり人容并多和に見えり
長身より人果ありあり五雜組に琉球多難なり
也他也もむ多なり

薩摩の地は琉球近し海と法取も形し琉球志も
も其に實説委めたり今土人の不許も山川と不津
より南方にあたりて凡三百里半復冬にありて
船路の留ありともその間に連る船も十世余の何
れ船ありり多ありたりは徳義をりる海より安し
薩摩の隅の浦にありて守りり山及の山ありて
一年に幾度とありて法海より多し人麻
兒多しりも土俗の人教琉球の地へ居りて勤番

出らば新もろる事少く其のあつて生るる風土にて
 十余万石薩列くと納す也き年共事より琉球す
 今も早魁して稲熟也暖國より稲熟す五月熟す也
 此時冬薩列の侯數あるの事を減く好むの事あり
 總て琉球人日本に俗を慕ひ薩列の屬せりと之を
 中華福建省に比ぶるやうすれ等福列のふるま
 へ海より事なる依て福建省に知るる意しして
 聘永より事々薩列の事と云ふ事ありしに知れし是也
 漢書しと云ふ薩列の名産阿こも望や字不調琉
 球乃南より産するに其の味と云ふ事ありしに氣味
 の一件枚挙するにいと多し薩列の記事なる所
 小僅に社人の物語と云ふに及ばず薩列の武同と見
 らる薩列の遠国なりて河より東部へ海に及ぶも
 辛勤して上方節は月俗成えし士中玉節の士
 風を習ひて替りし是をいふ所れとも外城に在り
 して薩列の地と云ふ事ありて其の事と云ふ事あり
 小字やしは如長き力に記しと云ふ事ありて其の事
 考めると云後も國なまりありて解かざりし事あり
 への武士等から風俗なるに形母も其の事ありて其の
 言ふ事ありて其の事ありて其の事ありて其の事あり

何國の裁ひありて薩州軍兵祿を強くし
まゝの如き則とせし古意の制也尤とせしむる
唐一戸は余ヶ外坪あり士格二万余五石五石五
石耕して自耕し佃民あり計多島もや那と
水之入と人等自由の苦みも水舟強も人等其
て穀果も嘉食もつとて思中あらぬ物と云ふ物の
和風多見敵して平し其男も十八人老し人等耕
地を食し厚く是て粟の中も昔一畝は多むと
定むるも其頃も平少ありと云ふ也
和風俗あり薩州の如く海内田圃計り地也
和風中より要害の如く和風津浦の如く地也
和風俗あり薩州の如く海内田圃計り地也
和風俗あり薩州の如く海内田圃計り地也

世より其多薩州ありては右の如くの上を又教人等
あるに如くありては人より守りて秘して詳ならず

福昌寺杖旅信の智を仰りて故実事也少くも之方と細
 り言ふに七人の信とて少くも之信の姓名委し知くは家門
 と稱ゆる無の律黨あり万石以上の家ありて政道經海の事
 ありて之を申奉りて官事同一政事也其事終りて以て
 下ありてと推して之を執りて信の律黨の定法と云

世の難法は之の如く福昌寺杖旅謀やより其成りぬれ
 薩列に忍び下り信津家杖旅なればいなり門徒寺の
 信ありて之を無の世におく子孫今も何の事も
 虚説と云ふ思ひなすも信の事なる水多き家か
 いてさうりやりの信ありて杖旅の事なり信なり
 言て其説ありて之を信の事なり

遠見に字やれ
 系も信の齟齬
 有と信を力に



大隅
 海
 日向
 加治木
 伊集院
 薩摩

山崎の津に海舟し舟をり記添きて町と大繁あり風俗
も乃不く土人の云昔は共浦の守船にの七日向洋成
海に伊祿流ちりて此系動ありし交りしん日
離れてしりし海をりて此法代なる危なき事のみ
一友に今も其由治那しん水も此敏新氣此波の
通しりもいりしり記此旅難り又云此浦にぬりし
此舟舟に艘と十挺も立て真文字子南海とたしりて
伊豆下四浦渡海す水十日のゆり必しし事
伊豆下四浦渡海す水十日のゆり必しし事
伊豆下四浦渡海す水十日のゆり必しし事
伊豆下四浦渡海す水十日のゆり必しし事
伊豆下四浦渡海す水十日のゆり必しし事
伊豆下四浦渡海す水十日のゆり必しし事

此地より居るの波は海と廿里いりて一里は
多し舟居るは波多し古くは久國と稱せし一國を東西
九百里南北五里七百里と云ふ二里云々一里名産子
取の本より一里一里は本揮艦を中流の風俗上世の
殘りし人琉球はしり有波の志多し此を琉球の
風なりし云々

是將之旅人の海に事同禁ありて市は海海を以浦し
あり居るの波は海人とも多し舟りて舟なり
一里は信にかき事多し宜記せ凡

屋久丸の徳以徳... 承正の徳方十里... 稗傳... 其
 ... 徳を祈りて... 俗屋久の徳也... 山外...
 ... 徳教... 琉球... 徳也... 山外...
 ... 浦... 徳... 徳... 徳... 徳...
 ... 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 ... 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 ... 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 ... 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...

薩摩徳丸徳領分... 徳... 徳... 徳...
 ... 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 ... 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 ... 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 ... 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 ... 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 ... 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...

乃年ありての首黄田と云ふ黄田同多と云ふ是之種芋八島
目録に之を黄田と云ふ是は是れ也地利を以て是れ
外の種物多しなり書一表に芋四十黄田入て七地にふる
事ありて耕耘するにてもいふもはる荒畑の北面に
きにふる生ゆる物とて下庫とありては是れ也
年之後是れと雖も是れは是れなり是れは是れなり
それとよくいふは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
今も人といふは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
若くははしは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
ては是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
何れのと雖も是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
人といふは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
と云ふ是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり

乃の是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり
是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり是れは是れなり



此島船乗りと云ふはありて島人年比方乃
 渡世と云ふはありて島人年比方乃

此山とカヒモコが嶽トモウツホ島
 トモ云又薩摩守富士トモ云藤ヨリ
 頂キマテ三里を曲道ナリト云
 九月改ヨリ四月迄冬々雪
 有リテ風景一好キ遠見
 國々必し富士に似クルトイカド
 古事記に

薩摩くゝ觀娃の郡の

うはは

いんやの筑紫の

ぬ

山と云へて島
 みるも解しあ
 山都の地をさか



薩摩坊之津島
海面三里半

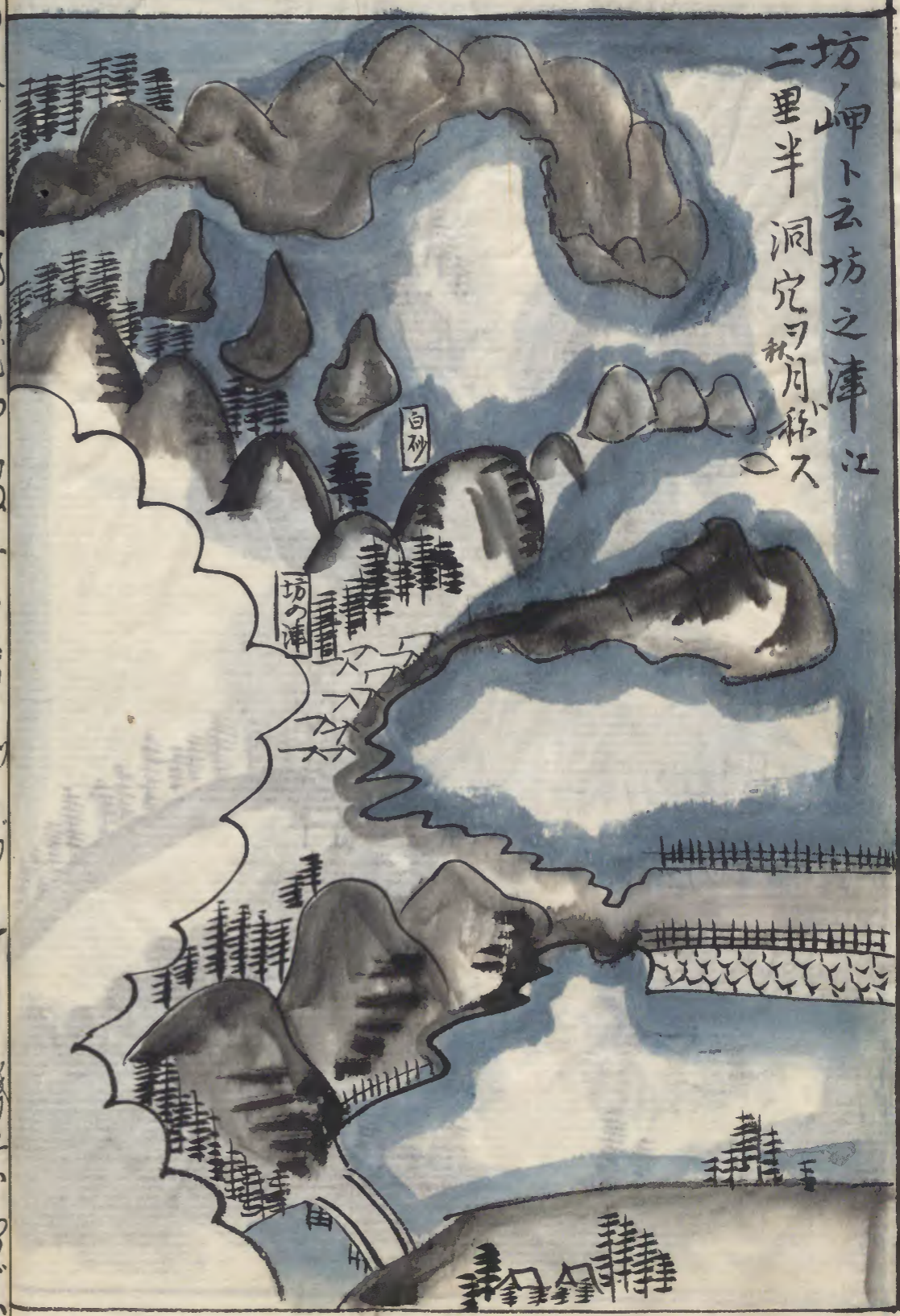
南



南



坊岬ト云坊之津江
二里半洞穴ヲ月林ス



坊岬津江と云ふ所の故の世の昔を知る所の勝景なり
 予も新橋より若年より此水の癖有て詰りてあり
 風景此地より少く我をみる所も新なる所なり
 予も此見やほとくども母列を杖持立藝列嚴格持とく
 登見しに元杖持きよも海舟杖持能く度夫あり
 此心杖持系とく人の心画師とくも画とく記あり
 予も此の極もなるもの事やとくも似る杖持とく
 一秋の月と称る岩穴まで雅名ありてふ所なり
 予も此を凡く傍にならぬ岩とくも同一の心行なり
 とも石はもきん思ふ故なる雅なりとく双紐石と称る

教上の岩^{ろか}見^みる^るも^もなる^るは^はなり^{なり}也^{なり}海西に於ては

瀨山の巖石^{いそ}の^の雅樹^{みやま}と^と前後^{前後}左^左右^右昔^昔むかし^{むかし}と^と名^名なる^る

那^なる^るを^をい^いひ^ひき^き遠^遠え^える^る可^可可^可嶺^嶺山^山と^と名^名なる^るは^はなり^{なり}也^{なり}

漱^{しゆ}石^{しよ}の^の山^山と^と名^名なる^るは^はなり^{なり}也^{なり}

自然^{自然}の^の石^石連^連華^華ひ^ひす^すた^たら^らし^しく^く一^一葉^葉

院^院言^言ゆ^ゆく^くの^の寺^寺に^にあ^あり^りて^ての^の風^風景^景乃^乃地^地あり^り

遷^{せん}す^す南^南東^東海^海と^と名^名なる^るは^はなり^{なり}也^{なり}

小^小島^島あり^りて^て見^見る^る近^近しく^くの^の島^島と^と名^名なる^るは^はなり^{なり}也^{なり}

市^市中^中あり^りて^て温^温泉^泉あり^りて^て德^德れ^れり^りと^と名^名なる^るは^はなり^{なり}也^{なり}

く昔^昔々^々唐^唐船^船密^密船^船と^と名^名なる^るは^はなり^{なり}也^{なり}

て領^領主^主なり^{なり}と^と名^名なる^るは^はなり^{なり}也^{なり}

琉球國、福州之相對、上海より遠く阿蘭院其

外乃唐舟密船、向の海と往來して長海、東海

は時東風、凡強、水多、日本の地あり

て多、琉球の地、船と名なり、有、次、は、なり

に交易、乃、は、藥物、唐の琉球、より、薩、海、なる

事、なる、唐の琉球、地、に、於、て、も、なり、け、り、諸、島、河

事、なる、唐の琉球、地、に、於、て、も、なり、け、り、諸、島、河

事、なる、唐の琉球、地、に、於、て、も、なり、け、り、諸、島、河

水引新田を詣りて坊のほろめきく河内川を道にして
 十里余三方を廻りてまゝあるる茶店を那く遊事合
 て建一旅二回二回の新り家下してたふ那くかといふ
 勿論の事申す暖みぬぬや馬や牛をたき置ぬ家
 もかあのとく座の下を打ぬをいせしもたあて外



まうも田うも農具とあしき運をきやし物を
 他おになき家作へ馬や牛をたき置ぬ家
 まうにしきしを揉りて半馬の冷み物何あり
 とききしきく小夜はほも湯のぬくちしてまゝ
 あり久きき百年も月やわたりにせしもの
 此辺半々甚稀にて馬多し馬にりいぬき一匹
 ぬくも存助女もな敷いえらに同し農具も
 具ありて月乃ぬぬ相夫し玉申八がきふも
 押引もしし紙ましの頂も平なる故みまとい
 細きし難敷と他りしきありて念物等もふりし
 ともよ氏飢渴の難なき團く申しりある石の産物
 とぞしに藍紺み深てねふにま桐と布中布夏の衣とや足
 砂糖棒のふゆ多葉粉海月糖船の押製一換物の
 杖急久の徳ト云外他をたき置ぬ琉球の産物とるてき年毎に
 價もなる所の金も凡十方兩小及土人の自焼目せり

教を所りてのまに武備全に將津家の自國と教日
たふして、家々媿然か、この切取も甚く、是長、
及の所りて、不の後の事、思ひ、いかに、
宗門の事、當に信方より、中務、門徒、
急道より、一門徒なら、ま、秀吉公、
平頭寺、法同、た、り、て、他親、
代名、と、孫前、の、建、て、信、
陣將、と、物、と、して、か、あ、り、
有名、と、改、物、と、る、事、
一、と、は、除、け、
軍、
集、
當、
切、
向、
以、
宗、
我、
以、
未、

非也してと云ふもかゝるも死をとしてある
事としてなり予と虚実とをいへるは武家あり
る通物語し不形寺杖難有事としていへるは家
目打ありてはいへるや一事なり記兵へも宗門
と無う有るも宗門徒なり今ありて常國に於て是
年毎に宗門の事ありて刑やして
志望ありて追放やらるるを肥後の水服久
不願ひありて長住する事ありて薩摩西中へ
内へありて宗門の徒より改世のなるやこれ余浪
と集めて合力するといふは一件にありて馬集り
しと云ふ虚説ありてとさるるは子にありて虚説
ありて忠と云ふは忠の心をいへるは忠の心をいへる
宗門なれども一亦を教へて後世あり



河内之水引圖



河内水引川多所一の川ありし原を隅の内分流
 ありて流るる薩州より安行河内此小流の川多敷多不
 て大河ありてなるは成早冠年ありて水年決出た
 て早換多敷多し云々 予 桜の知方七八方ありて四方
 多敷二之分れ玉及び早換多なる事は是れ水は
 月一すく物新田名と稱せり是日向大湯薩摩三井
 國共一の宮あり能領子石能治神を敷多なる齋神
 年母も別れ多なりと神を能云々 予 能地の子也と
 見しに之を能境と見えたりと云々 能地の子也と
 仁徳天皇は信ありて播磨鹿水と云ふ子

仲哀云々其後あり墳のわらわらとありて曰
わらわらとせよとせの人と暮れ製するわらわらとせ
之ども高き此墳を必死にたふす其所の山も随
道の私しと許すべし

國分寺も古跡とて人々も今も其殿裏にて小
院となして水記に傳ふは海浜にありし城村と
水引との間松の名本あり乃ち人運轉とて多し
余るも風俗播妙言報の松も者ぬ松之松也其
誰稱養する人ともわらわらとせよ事ともわらわらとせよ

市本伊集院の間に百代村とてふるも此松の朝鮮

人の子孫最多位者をもて守りて定てをて傳へ
の面自ら齊するもわらわらとせよ一日路乃連是
此所之松しめて養し尋少くは秀吉公朝鮮
以征代の時朝鮮の男女十余人薩州侯へ送らるり
しやけの物しをわらわらとせよ事ともわらわらとせよ
勅語し今此所住らる朝鮮人の子孫あり余り
何とも髪少く髪を巻ひ頂するも曲て琉球
人の髪様しやくみして何とあしやくとせよ長
くわらわらとせよ長も字く面を細長くしと

戦くは大方より日本人を縁結する書を以て
以て法政の文宗なり日本流の月代文宗とする
事なり其を代も日本の地を佐和しく入る事
風俗の如き事なり大定なるも日本天宗の体
衣と後と薩州侯の致も然る事なり此れとも佛
免しなり今も南緯侯の去りて一家二二人故
持てしむの守り勤道行の事なり古例なり
て以て見たり朝鮮亦ごとく此を見たり其も之
此地を法後此免地なり此分枝家子孫なり
此れ也之に在り事なり此目見の時朝鮮の
来りし者あり其る事なり此目見の時朝鮮の
摩訶と云法器の陶とて後世に他あり事なり
此地も分家しく麻屋村といふ所も朝鮮人佐也
可言談今も朝や入る業事なり其父と云る人
此外もなれぬ言あり

西平 西平氏
書たり阿久根近三里半海濱の荒磯と傳
事なり其守り道の街道なり其も甚だ趣あり
一々なり其方なり薩州侯なり其勤事
山川其傳なり京泊の仲と著り其肥前長崎

乃西と見たり云界灘成致えし其間より陸地
と登りて其小車之道一の海と那くん

其以若や其の地三方四面の深凡と老之元
中華福建省之地相対し海上一百里毛
何し海を其因はしよ盆乃凡之在成
ふり一孤子岩石なる一沖より打ある浪
岩にくさけし海と白くえなる事なる海
舟成なるに細長し〜〜〜岩乃何とく
下海とすし飽成中一〜〜〜

月亭湖も云
那うすまに
多謝し〜〜〜
浦一の業と
以海産の岩
石数多なる故
に録多し〜〜〜
東
以云し何〜〜〜
見〜〜〜
人わ〜〜〜
や〜〜〜
言〜〜〜
作〜〜〜



河之根より十町南に赤根村と云ふあり此所は其
畑中あり地は吹ぬ事あり地を敷新あり其
地を製するも元人の砂と畑の中へ一石をぬらして
宜き地中あり地は吹上げて砂に成る事あり
それと海邊ともなりはぬれてる所は地を寛らして
禁平海邊の南に地を築く
祈く申し地は高き所なり日中あり其地
乃地の子居る

奥の金隆村の事

河之根の南に津より二百名積たは船あり其
地は後海邊の地なり其地は船の出入りあり
船の出入りあり

止る也之薩摩小出と作ら地は高き大木あり
多し甲生れふり山あり其地は高きあり
能く道を造りて地は高きあり其地は高きあり
之層と飯方四里なり飯方之南に飯方二里あり其地
之病あり其地は人病と云ふ地は海へ下り病と
云ふ人あり其地は人病と云ふ地は海へ下り病と
病と云ふ地は人病と云ふ地は海へ下り病と
了してあり其地は高きあり其地は高きあり
日本其地あり其地は病と云ふ地は海へ下り病と

ふりまの、除水きのそけらるる病は、醫家に
備はらるる

河之根より野田へ二里を野田より尾 尾 乙水に

まき 乙水より津へ まき 然地を書武にそ供をとり改

肥後を云お水等ゆゆふ外城より士家なる

申東津も申家斗りる名に肥後口の女の巻の

なる海より月より隔る薩のまて日月晦日

薩のまておまて肥後の国へ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like "水", "石", "津", "路", "記", "後", "比", "水", "股", "近", "二", "里", "等", "北", "向", "國", "境", "の", "標".

一四 嶺雜記卷之五

嶺摩の北津に記後比水股近二里等北向國境の標
木双方の建二庵思遠れ^{二七二七}近^{三三三三}廿六里三平^{三三三三}然平札
の^{三三三三}近^{三三三三}廿五里^{三三三三}記後比水股^{三三三三}袋部^{三三三三}と^{三三三三}平^{三三三三}
從^{三三三三}事^{三三三三}の^{三三三三}こと^{三三三三}とい^{三三三三}ふ^{三三三三}所^{三三三三}致^{三三三三}薩^{三三三三}州^{三三三三}の^{三三三三}事^{三三三三}所^{三三三三}を^{三三三三}旅^{三三三三}人^{三三三三}に^{三三三三}及^{三三三三}む^{三三三三}
か^{三三三三}し^{三三三三}此^{三三三三}を^{三三三三}も^{三三三三}同^{三三三三}の^{三三三三}後^{三三三三}乃^{三三三三}袋^{三三三三}部^{三三三三}も^{三三三三}五^{三三三三}れ^{三三三三}も^{三三三三}記^{三三三三}後^{三三三三}の^{三三三三}水^{三三三三}股^{三三三三}
依^{三三三三}補^{三三三三}の^{三三三三}南^{三三三三}二^{三三三三}薩^{三三三三}州^{三三三三}の^{三三三三}記^{三三三三}事^{三三三三}を^{三三三三}皆^{三三三三}く^{三三三三}後^{三三三三}乃^{三三三三}を^{三三三三}入^{三三三三}り^{三三三三}
水^{三三三三}股^{三三三三}を^{三三三三}求^{三三三三}麻^{三三三三}子^{三三三三}部^{三三三三}と^{三三三三}袋^{三三三三}谷^{三三三三}川^{三三三三}と^{三三三三}名^{三三三三}く^{三三三三}小^{三三三三}流^{三三三三}屋^{三三三三}合^{三三三三}所^{三三三三}
之^{三三三三}大^{三三三三}碑^{三三三三}中^{三三三三}の^{三三三三}所^{三三三三}場^{三三三三}に^{三三三三}一^{三三三三}村^{三三三三}門^{三三三三}流^{三三三三}字^{三三三三}と^{三三三三}て^{三三三三}よ^{三三三三}き^{三三三三}寺^{三三三三}院^{三三三三}何^{三三三三}る^{三三三三}
は^{三三三三}節^{三三三三}日^{三三三三}敷^{三三三三}る^{三三三三}中^{三三三三}の^{三三三三}一^{三三三三}ヶ^{三三三三}所^{三三三三}井^{三三三三}の^{三三三三}水^{三三三三}を^{三三三三}さ^{三三三三}ら^{三三三三}し^{三三三三}て^{三三三三}數^{三三三三}十^{三三三三}

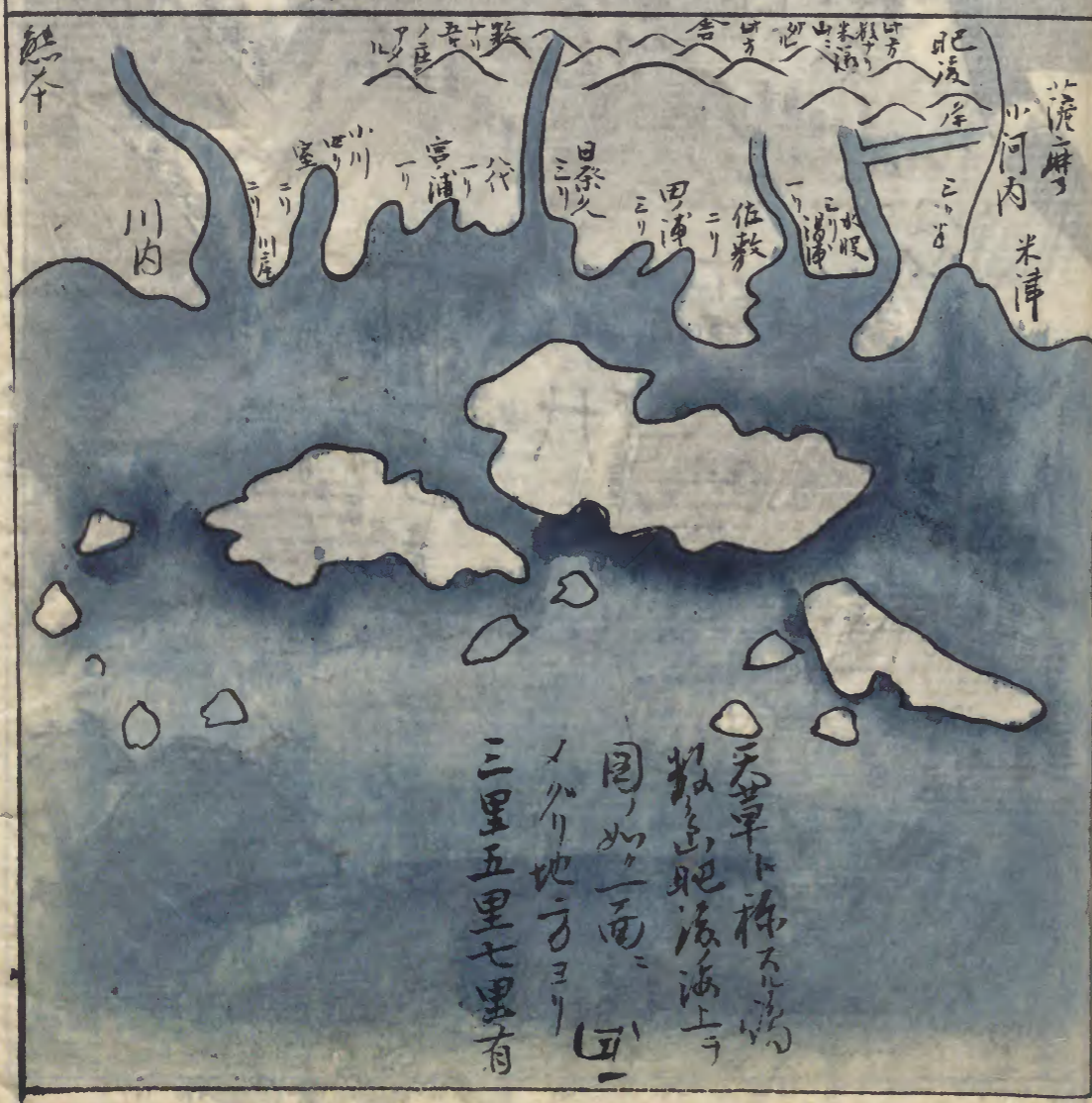
却やなまざる乞ふりふ人の信をば龍神人の信を
 以て此の之供をよと云神し其事なるは一見
 せんといひて地は行かんは海岸を駆けまわつた小
 舟と建業よつた中津の婦人の形を傳へて大
 振袖の衣をよふ供をよと云又いに赤や振袖とて画な
 草紙道に添て居るは凡し板村没人の社に巫女見
 為人の信を教へて龍集しして中よ改て笑し
 き社人海より白ひて古き唐徳入中より一巻を
 也しと云ふはあひひるる主家久れ文章書
 傳もあふ事なりしあふら此文章書に
 此のしに龍の體と形したるは古傳同様に
 雲のふり龍神就玉来の神々との申は浪風
 と云はれりあふのこれ龍神代の暇中と云
 ると云ふはまきくあふの福しふあふかあふ人
 に神も縁るあふと云ふは龍神のあふよあふか
 らしく入あふりくあふらあふは左のあふと云
 ると云ふは彼業人龍と海流の事也
 右文白代は
 時傳よりあふりしと云ふは龍神のあふよあふか
 五といふはしと云ふは龍神のあふよあふか
 の娘を伴来してと云ふは龍神のあふよあふか
 如くして海のこしと云ふは龍神のあふよあふか

例もある事也古一の事と傳へていしあるは
右奈文の文章少あれぬ文亦有りし所写し
あると云人を然らしに急はして個を以余り古
雅あるぬと教又流し又控はせりしに於て
する人の若しいもあつてと字も字を費しぬ
水後より湯の浦は三里は間大徳寺と稱せり坂
何より下二里餘しと事少平ありし肥後の方云
はと坂の名は高野と云り坂といつては肥後
ありし風土は然りして民家此種なり陸州より
入湯なるに流すにありともありしゆを以て温
泉の湯を河しわの功有る温泉といし然も
肥後の地所の肥方を入湯と云る人少くありし
能くあり是より山を以てく無く家ありしこ
も湯の浦地数ヶ所ありと云
湯の浦は佐敷より里は所多敷肥後まで一
の所より高く高く近所の個物は地より多湯
程の市中には佐敷より求麻呂郡舎の城下近
八里と云

肥後の地は力とて百枚此妻女近し流傳り

様我討氏薩摩信薩摩殿相言信い衆
 摩殿と稱する事之何也古くは
 し事あるにせしは都みえ古くは葉を海し
 能辨ありは殿の様より衆人を言ぬるに
 葉の事やしも今争わくはも様我の事と
 世の流石はまゝにせし
 土人の物徳を南島の名所女島と云ふは佐渡の事と
 しひきり詳みは古くは又
 手舟や女島山の松北保みせり
 島川枝津入浪にたして

世に有板守の圖に
 古くは地盤結成板
 富に同じし生物之
 地帯と云ふ事島の間
 以乃于海より出たり
 海より出たる地帯
 やふにえ由
 地帯より年々
 築地せしむる事
 新田せしむる事
 ありし





舎無^レ依^レ神^ノ山^ノ道^ハ八^ノ里^ト道^中託^テ外^ノの^所也^ト記
阿^レれ^モ世^ノ道^ハに^は凡^ク十^五里^ト有^リ也^ト記
乃^シ其^ノ所^ヲ以^テ阿^レれ^ル依^レ安^ト一^ノ此^ノ漱^ハ二^ノ里^半三^ノ里^ト
遠^シ一^ノ五^ノ里^ト阿^レる^所也^ト云^フ所^ハ相^ノ良^ノ信^ノ此^ノ
領^ノ分^ノ以^テ昔^ノ所^ヲ以^テ作^ル東^ノ切^也と改^メ移^ル人^ヲを^シ人^ト
て^モ村^ノ役^ノ人^ヲを^シ人^トて^モ人^トを^シ人^ト送^ル人^トを^シ人^ト
之^ノ在^ル者^等多^ク其^ノ地^ノノ^ノ村^ノ役^ノと^シて^モの^ノ在^ル者^等に^シて^モ
者^ノ代^ハ八^ノ向^ノ海^ノ米^ノ代^トと^シて^モ其^ノ内^ノ領^ノ主^トを^シ人^ト申^ハ下^ニ
と^シて^モ云^フと^シて^モ難^ク有^リ也^ト云^フ人^ノノ^ノ領^ノ内^ノ
代^ノ妻^ノを^シ人^トと^シて^モ其^ノ地^ノノ^ノ役^ノに^シて^モ物^ノノ^ノ米^ノ摩^ノ
一^ノ所^ノ多^ク古^ノ之^ノ東^ノ麻^ノ國^トと^シて^モ一^ノ所^ノと^シて^モ海^ノノ^ノ米^ノ摩^ノ
屋^ノ風^ノと^シて^モ也^ト云^フ其^ノ地^ノノ^ノ相^ノ良^ノ信^ノ分^ノ明^ノ所^トと^シて^モ其^ノ内^ノ
入^ル所^ノ多^ク其^ノ地^ノノ^ノ相^ノ良^ノ信^ノ二^ノ百^ノ余^ノの^ノ地^ノノ^ノ知^ル所^トに^シて^モ
て^モ凡^ク十^五余^ノの^ノ地^ノノ^ノ子^ノ舎^ノを^シ山^ノノ^ノ腰^ノを^シ笑^ル所^トを^シ人^ト
阿^レれ^ル所^ノ多^ク其^ノ地^ノノ^ノ相^ノ良^ノ信^ノ分^ノ明^ノ所^トと^シて^モ其^ノ内^ノ
け^レし^所之^ノ所^ノ也^ト云^フ山^ノノ^ノ奥^ノと^シて^モ風^ノ古^ノノ^ノ所^トと^シて^モ其^ノ内^ノ
乃^シ其^ノ所^ノ多^ク其^ノ地^ノノ^ノ相^ノ良^ノ信^ノ分^ノ明^ノ所^トと^シて^モ其^ノ内^ノ
自^レ其^ノ所^ノ多^ク其^ノ地^ノノ^ノ相^ノ良^ノ信^ノ分^ノ明^ノ所^トと^シて^モ其^ノ内^ノ
乃^シ其^ノ所^ノ多^ク其^ノ地^ノノ^ノ相^ノ良^ノ信^ノ分^ノ明^ノ所^トと^シて^モ其^ノ内^ノ
又^テ古^ノ風^ノノ^ノ家^ノ化^ノ之^ノ所^トと^シて^モ其^ノ内^ノ書^ノ名^ノ口^ノ向^ノ

ち賜すりいふことなし 予山平村と子所の地地
 ありありしにあり風雅心ありて上方節の物語
 とさるるほしと一夜無く宮又止まをありて居り
 止るしありし物語の地地ありてありやも
 山中く十余日も流るるをいふは
 成る交配するをと都方里ありといふは山中
 ありとも一都まで四里とあり原大此事にあはれ
 事とありしに高深山中云あり山及十三里といふも
 幾里あるとありや道もふる湊廻の山と教養哉
 中事ありて道の老ありしありしは
 ありし青物も所物し武巻ありしありし
 伝説も山のしと高なる事しと交易抄
 してあり物ありて今も河もありしと云家教
 凡百余村あり家の長あり三家院方氏二家あり
 又平家の子孫と姓あり系図と名字系図の節に盛
 きて此僻地とく粟禱と山中入人の事あり不
 足する土地ありとありありと云
 て熊の膽糖麻の波るやと雅へて舎へて
 て伝説又交易ありとありと云 予も河教の物語
 ありてありとありとありとありと云 今も北条と山あり

のひまを死なとありて、其年より後、ハ五ヶ所此内をさ
まゝ宛傳ふに、孔と稱して、山管の然る信相
るに、信へし人のぬし

五ヶ所の此の地方に、里余余より、河川、山人、野まで、さ
申しく、河事ありて、ハ、巖石の、之より、信より、信と
下り、信より、ありて、上、新より、河、又、熊野、河、事、さ
まゝ、ありて、と、お、お、お、の、山、奥、ま、一、部、ありて、
他、之、ち、る、お、お、お、し、は、比、多、日、向、邊、ハ、山、乃、あり、肥、後、の
河、藤、那、の、志、と、交、易、あり、お、お、お、セ、ル、と、お、お、の、此、の
志、ハ、信、し、と、武、人、の、物、張、し、し、し、

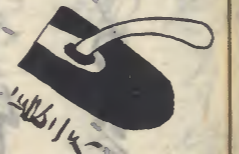
此の山、河、し、度、ありて、セ、ル、て、山、山、近、河、と、い、ふ、と、合、言、に
止、者、セ、人、の、山、事、あり、事、し、し、日、中、に、定、む、お、お、お、死
け、し、て、二、里、余、あり、ハ、山、林、根、と、い、ふ、告、者、ハ、是、より、山、
河、那、ハ、僅、一、里、と、い、ふ、横、道、ハ、河、中、の、道、中、で、何、れ、た、の、を
お、お、お、と、い、ふ、と、お、し、り、て、見、物、あり、志、ハ、お、お、お、漸、き、
山、中、ま、て、茶、の、お、お、お、し、し、し、なる、の、を、お、お、お、河、事、
あり、れ、と、あり、し、此、の、し、と、い、ふ、止、し、故、ハ、不、河、事、山、
ハ、事、と、い、ふ、し、に、合、言、あり、山、道、ハ、二、三、里、ま、て、五、ヶ、所、私、に、
も、遠、し、は、比、多、日、向、大、隅、ハ、は、き、し、深、山、ハ、中、ま、て、
廣、大、ハ、事、を、お、お、お、し、水、磨、那、の、志、ハ、て、も、領、至、ハ、
は、由、り、し、た、お、お、お、河、事、あり、山、事、ハ、山、事、あり、て、し、

事あるに不致日不致米良氏不難も人言日阿りて
米良山は長き氏事多ありしと云此云新に米良地
一万ありて中も阿り立祀前多宗侯の以致地と云定
て米良氏の食地を其内ぬべし宗子証所上人の
物張りと載しものありて虚実 予詳と世人知しぬ山中
と云る百子余と云ふ少し信しりし田新と云ふも数多
阿る事と云ふも不属と云ふし其之強て信し
ぬる物張る阿るは谷川等物も流れて今に余れ
の川と云ふ強人代の城と云ふ七里 上りては 阿りて急
先道と云ふし九里を一要害と云ふ也 上りては 阿りて急
之と云ふ外を略せんとすに其分内控く出る道遠
面白うぬ新に 上りては 阿りて急
佐藤が田の浦二里は同し佐藤を宗と云ふ故に其
下りて此城之佐藤と云るなり望み多る阿りて急
切道と云ふ新も阿りて急ぬ急なる城之海濱と云ふ
て道と云ふ坂城あり 上りては 阿りて急
田代浦の家計は阿りて急所之け地を今 日榮久と云ふ
里は阿りて急松を阿りて急に佐藤を宗と云ふ阿りて急
しと云坂あり日榮久と云ふ大坂此所より急を侯に云

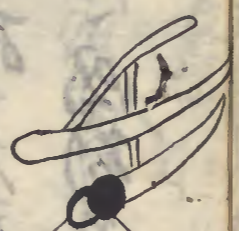
産も何う温家も何う入湯の志も何う日本新よて
 切ある温家とそ人地言語を産麻よりあし後さ
 しやあふれとも保也して社奉正る婦人まゝえりけ
 し事こそその事よて風俗其贖安を家すべし
 人のまのまのいへる時よ上り節申必西国をアイト
 へともいふ此後に申後とも此中にいとそいへる
 事よて自らの事も三トモさうさ之責女此通
 後とギブシヤと何しとあふれ思言故おありあり思

此の事よて自らの事も三トモさうさ之責女此通

心
 心



此糸と用テラ
 見止ニ腰ヲカス
 ワカウコトナリ



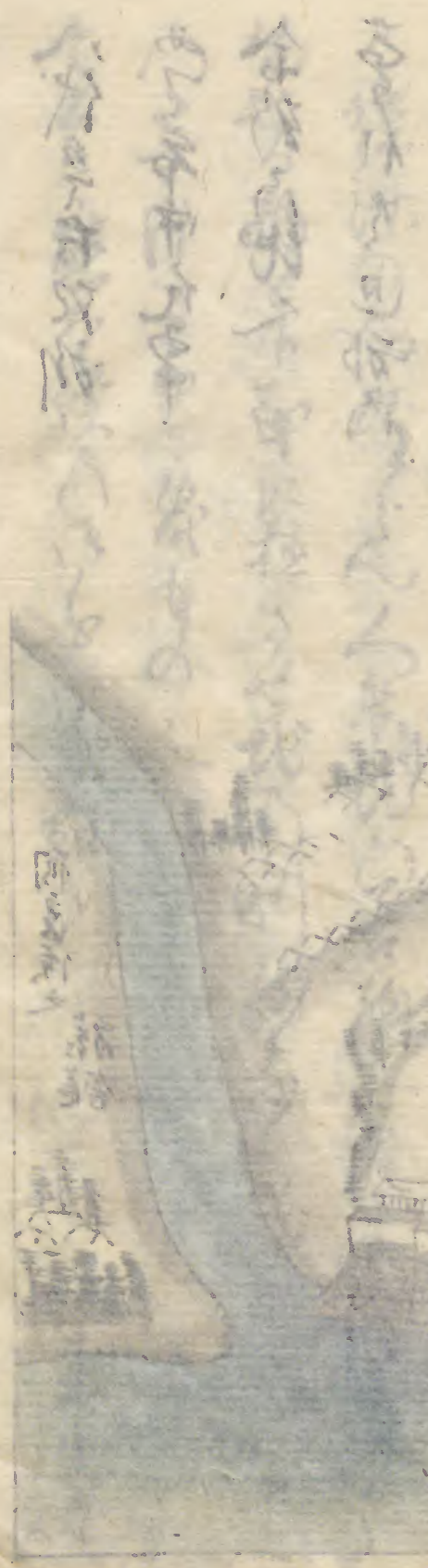
他國ナキ此ナリ
 此ナリ

右に外目をみれば忠器をしりて國風よて小麦の粉よて
 ○◎あつれとくは田文取の絲ほとまし又と綿の内
 事としきて煮てを事としし并南よ竹の皮
 よ包て喰ひそせば竹の皮包物無く道へ捨れ又よて
 尺指の皮の乃くよ打散て有るよ豊倍よりそよ
 竹の皮の乃くよ打散て有るよ豊倍よりそよ
 竹の皮の乃くよ打散て有るよ豊倍よりそよ

地而より北流内内水収占八代川庵の近止地而
とく敷入るる事申中由初又留りし事
兼風土より綿も化所あり河に流る事
北流より七所場あり族人者や移る事あり

修得志事子不及猿引し事申中由初又留りし事
河相入定あり止者あり又之薩州とけ水汁族人
者を移して乞食地人ありと申す乃不獲せ出せも止者
自伝する事他述あり事因創事

八代無能事候入事又三方長堀近りし所孫城より大
船を以て薩摩の北長堀に八代川と申す
大河より麻の人去りし事申中由初又留りし事
小なる城と申す事あり申中由初又留りし事
河より相る候の事孫籠あり是川に舟あり事
時止者あり事



八代より古に新

めて市申元中

余新の地へ

あつれち四部

所也又張不白也

多しは扱はま

はおめ名産を

云密林の牛城

又の良觀州

密林の本山へ



桐原信之
旅館

六
六

又よして大樹へ

事なる密林の殿なる事之紀好まき若市

らてきえくののちの成密林の實のりるあま

冬切控えたるくま川をばとて若市と控るる

なるま新まきとちのの大樹おとてきえくの成密林

實のくびとま地の利と地とてしに上川とあるを

え經濟の心めとて人等地の言物とてんて地とて

せむる物とて甲に控え地と利扱あてりては

るすすけとて後まのく

そと無能を候入はも家細川

山を

大坂此所へ昔時無き山西橋はちる土城の地にして今ハ城
をえりぬるありは鐵ふりくとんありのこし
所場くに隠れ齋女り、幼よそギガヒと云人の物作
に古法と今世よそ齋子齋者こし通稱多し百年の
ころの事ありて故齋子と書し古記和書ありといひさ
九所よハ名を記し本信ハは別館水前寺のには茶
屋んす水前寺ハ地名ありて出方里里は河子川尻を
よの添河の諸洲の高船は流る事れを必はけ陣
船を繋ぐ所へ大坂へ入るに後舟を繋ぐ川尻の
後より番所には舟を繋ぐ所も淋しめあり
あり所あり

土人おぼへ天草一務の時、候は地を平と有ま
て糧米はせんく夜のみては清之海人字はま
を川尻へ出らるりしに事多しといふも
るしりくふ先此妻を然る後無きをいふ
云もし事、後、賊、和海上候、つんありあり
せんとく、之をいへと、踏切せしに、奉、江、何、集
知、也、有、と、い、て、所、中、の、火、繩、お、り、自、來、を、
敷、く、は、切、て、火、を、つ、け、と、い、ふ、こ、と、は、
行、て、海、濱、敷、く、に、立、あ、り、て、是、れ、島、國、の、旗

形りしりも火の光り物炮の光鏡のしりく賊舟
よりけ火とて能く燃るる装の士殿千人後く
れたふ人数ありけりしりして十人計きて私を運
て危なき難とのこれしりく今く花もり
その人の者保は依り数千人の米とを奪れりし
よの物語りありて 按は花もり將の益あり
之れより名之詳あり今もあつる人も
人の事ありけりしりて世にせりしり
のいふは花もり將の益ありしり

川尻の水前寺二里五道に村敷ありしと云へども一書ありし
て其家も入りてはよりめりしりしりしり
杯を遠目より入りけりしりしりしり
と云ひしりしり 此道にて百計して金持にありしり
の所とて入りしりしりしりしりしりしり
予若やそよのそよのは庭春の甲申寺ありしりし
るるありしりしりしりしりしりしりしり
して入りしりしりしりしりしりしりしり
種はは茶を酔月亭とありしりしりしりしり
芝山ありしりしりしりしりしりしりしり

おしよいしく生流川となりく川尻入海に近江入醒
井川といし苗圃の名産献上せし物ありある海苔わ
げ川入流きよき生る海苔之味よりし多分ありと云
三子ぬらふ子ぬき糸よせきるる中てたもきくハ
飯上の撰と海苔も束ら束らし純又大粒な粒てし
希なる海苔と稱せし海苔ある實はきよき大粒純なる
の段へては作は波常実よりするの忠告海苔と調へ
て吟味ありしに製せしやせしはきよき味を遠くしるる
丸海苔を海苔れぬききよき前寺海苔なる海苔は
く川筋をせんきよなりりるに味は入流きよき事敷
多きくを川筋の百姓不製し新く製せしきよき
に肉より大肉をきくをきくしるるに味といふも河川
をきくしるるに味もきくをきくしるるに味といふも
之成飯團の地より凡八十百方ありあるの漬物新より
石をきくしるるに味もきくをきくしるるに味といふも
やもきくしるるに味もきくをきくしるるに味といふも
しと甲申の物語ありし川筋にきくしるるに味といふも
又之いしるるに味もきくをきくしるるに味といふも
不しるるに味もきくをきくしるるに味といふも
甲申のいしるるに味もきくをきくしるるに味といふも

築阿比城は外見固と強きせし事石垣に
 得し清心之幼の懐法を傳へし飯田角之居三
 宅角之阿の杯を武曾入士人史に交り若
 自、築しと云ふ南方此石垣高敷丈海内之
 如新入大夫又の言高石垣いさす、予不見平城も山
 城も移しめし山此之をさす、あは山、まきと繩
 張と云ふ、いしる、さし云、傳ふ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting.)

清正権現之社

社領千石別當寺
 本妙寺、主門、
 寺下、寺、主門、
 社前、延分、右、松樹、數百、
 石、石、石、石、石、石、石、石、
 人數、多、成、成、又、宗、宗、宗、
 有、有、有、有、有、有、有、有、
 祭、事、所、二、國、中、之、後、
 群、集、一、山、法、華、宗、三、化、方、
 三、元、末、寺、末、社、何、
 左、右、之、画、之、山、ハ、山、三、
 墳、上、三、社、建、こ、も、也、



是ヨリ城ハ
 三ヶ村



城内を初りしれども即見作山形を概よく其物多
公方に門ありし事にて本丸を二六丸の間を以て東
一旅人の通り東を本丸より東へ門分入て西の門出
南より本丸より西へ門分入て東へ門分出る事同敷
て城門幾門も通る事にて左の方より城を以て箱
と云ふ如前左を指門にて平門を内敷時をいへん
るしと云ふ所之土人の物語に薩州侯は從來の昔は
新まて瓦をといひて大なる道に造りし所より
ある地を以て東を以て西を以て北を以て南を以て
んといふ所をいへん定むる所をいへん
よといふ所をいへん此通りすれども城内より
築入るもやある所之市巾着を以て武万部余東都乃
所割るもや城を中しと武家所着所をいへん
取扱て家柄あり城内より築入るも城のりる金計
造りし城内の事と云ふ事玉柄を以て知ればは此城を
くして水道の地理を考へて其のくみしる不足
あるんも乃り市中より水道は川の流を以て掘植
てありし所あり城のり水は山より出きて海の水を
く掘中の井もありし所あり又水道を以て掘植し
西の方より築入るも北山の頂より遠目より

さひんる時城内へすうたあもて何んか一古山へ入り
遠見入推量には二の事ありて城を於て海内へ
於て双魚と城河をさし一島の要害堅固にして大城
あり城郭凡五里余も京野にけし海邊にけし大西も
大西之海に船長も世人只漁業ありて大船とのく人
とて之を定むるに船場のりけし兵の用ひやる智勇
ありて遠くも定むるに天文天正の終り慶長初
年迄安めし山の戦いとてその子に孫もその事なり
東照權現公を日本開闢し此御名君にして後世に
てしりるべきにけし此山もあしとて其も先利元
就上杉謙信は法山合戦に於て其智謀計田舎
とく義もあしり合戦なりとて感ずる事ありて面白
けりとの戦いに十はして七はまてし力も合戦にて
感苦所稀あり今清正抱現と稱して此地は繁昌
ありて又其智勇をたけむる社之御市申張り
人のくりに其の御屋急備前守山より其の屋敷
とて南へてそのし家ありて所ありて同くは子母
此良家も文もありて又昔の御市ありて人の御
も其の山に於て其の御屋急備前守山より其の屋敷
しやあはれ之何とて其の御市ありて人の御

叢書に記す少くも大儒ありて學文も流布し醫
師も亦郡井椿壽といふ學醫以外市中にも人物を
記す河内は好まざる比と稱はるる所之地也其名
長る事多し世に傳し世に知る事多し官に略しぬ
名聲に^三や^三多し^三多し^三の^三と^三名^三あり^三と^三他^三西^三に
ありて稱する^三少^三し^三又^三具^三珠^三丸^三と^三小^三兒^三の^三説^三病^三の^三功
あり名法あり是も他西にありし^三は^三も^三た^三か^三ら^三な^三か^三
阿彌入宮河内後嶽一見せんと大津へ志しお立地年を
大津進め置は道多平地にして街道入度廿二中間計
たむちの河内道本條大樹にて松林は外雜樹も
多し^三之^三は^三河^三内^三道^三正^三規^三長^三奉^三行^三て^三は^三乃^三成^三化^三り^三る^三を^三大
于時^三も^三道^三も^三轉^三く^三せ^三り^三並^三木^三も^三さ^三ら^三ぬ^三て^三于^三後^三あり^三て^三
日^三を^三あ^三ら^三せ^三し^三て^三人^三居^三く^三と^三せ^三し^三街^三道^三之^三大^三守^三は^三糸^三勤
交代^三地^三道^三筋^三も^三り^三豊^三后^三入^三病^三後^三入^三社^三東^三河^三り^三而^三く^三ま
り^三苦^三後^三小^三家^三も^三多^三し^三糸^三后^三も^三稱^三ま^三り^三淋^三ま^三り^三道^三筋
大津^三と^三二^三百^三外^三計^三入^三立^三町^三入^三大^三津^三と^三東^三二^三里^三半^三に
あり^三入^三水^三と^三云^三登^三り^三り^三一^三里^三半^三の^三坂^三あり^三峠^三と^三西^三入^三り^三に
北^三後^三北^三前^三の^三海^三と^三入^三る^三河^三嶺^三郡^三あり^三て^三今^三一^三國^三の内^三に
り^三風^三と^三大^三い^三り^三留^三り^三て^三是^三の^三河^三を^三所^三と^三す^三百姓^三多^三し
戸^三と^三す^三と^三し^三糸^三勤^三稱^三ま^三り^三竹^三北^三と^三す^三戸^三と^三用^三り^三と^三く

しとて間住してゐるもの多し此所へ

草場を子竹の所より産して糶にえり
造りも地もあつて名をとりて地にて肉の
解きしよる物此に食ふ所なりとすし



此後國所場へまゝなり



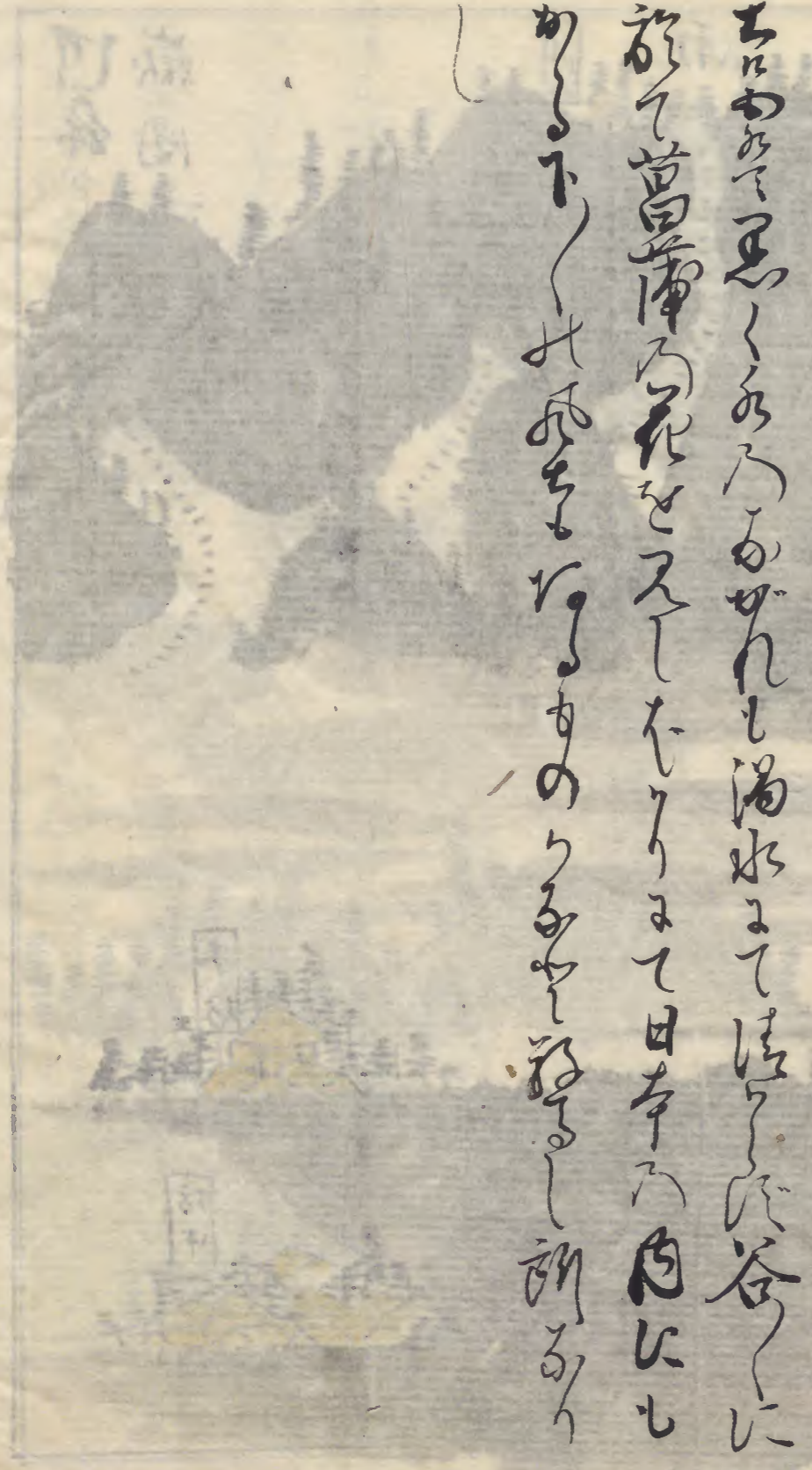
け戸有り何れと尋しよるしとすし所なりしや
子ともしとす盗るものあり百姓の家屋にて
盜賊杯とす多あり都へまゝ教りり是も今も中
いゆり別々を果し

ゆれとすむとめて皮ととらしし
よて素人なりしとせしを教りり



河内郡にて今二百八名乃地志へとも東西凡十里余
唐大坂よりとも山斗にて原野も数多あり並倉を
とも京より首此武所し此京を移せしにあらるる京を
やと子とすり此所へやせし所へ土人の物張は開
田せし河内郡にて十餘百あり也東海をよる安比河
所多し今も多あり古田も年々此河内等と云
此近年打續き凶年にて飢死せし者數多ありし

少いありふりて実事と見え任檢しめ家も言りしこ
 にありしに死すの評ふんはあて高田の守に書きた
 こと経海役北平を過つてくるに長長なるふに安徳
 した河原郡の移移もあ敷人飢餓に死に及ぶ
 ぬいぬいなりし事なりて大事もや虚後とゆへん
 事しと尋ずしに勢を出入て乞合せんをたるも
 おさねびとをば博れ也し道くまて道途に倒れ
 少く死せし事ありしと虚公の言ふ事なりし事
 におりて疑感一仁政あるなりしものと云ひし事
 賤入の事なりし事記しむ事なりし事記しむ事
 中へとも実事と云ひし事記しむ事又詔に似し事
 又事ありし事此に幾里ありて華咲州ありし
 ちかきと云くありあかれも湯水にて清く谷に
 流る草澤の花をえしたるなりて日本に内にも
 ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事





上公ありしに半馬の山に近れ地はこゝへハ子陵入
 死せし事こそ是の所のなりありし事と語りし
 所こそ此の所のありありなれりて代わりの所といふは
 同き所のなる事なれ山を尋ずればし中にも見え
 事への山形も繪もして位が懐る山を遠く、麓に山依寺
 所も取をて居て移して然る後より百に指する
 奇跡あり坊中より僅の所あり者なり是の邊
 一へは山の周程を元之大師ありありの室物と
 するよし事なる事語もなる。所あり、禱子洞と上之と
 秘して山の靈成をての事ありては、
 坊中よりいふ所ありありに、
 所へ到るは地あり温泉水ありとて、
 山と秘する所は山の名を大、
 名ありし事、
 小なり、
 大國あり、
 名と子あり、
 怪談あり、
 里あり、
 あり、

名高丸地、河橋あり、も物せし、備地とて、
地、北、隈地、とて、道、し、き、子、た、不、及、社、地、の、如、く、い、る、事、
あり、て、又、古、來、所、社、の、よ、き、の、如、く、社、の、如、く、い、る、事、
ハ、小、社、と、て、何、と、え、て、目、と、て、後、の、と、せ、ん、や、あ、し
館、の、如、く、信、心、と、し、て、社、の、如、く、い、る、事、
深、く、齋、権、石、拂、り、て、志、し、て、清、く、せ、さ、れ、し、
信、心、氣、を、し、て、ま、の、ま、に、は、社、の、地、を、回、る、
中、に、ま、た、清、け、た、る、事、を、し、し、て、社、の、如、く、い、る、事、
地、方、の、中、に、石、の、如、く、三、石、の、大、宮、目、の、食、地、と
し、め、せ、ら、れ、と、二、十、一、家、の、社、人、九、人、の、巫、女、社、合、し、
を、此、の、如、く、社、の、如、く、い、る、事、を、し、て、社、の、如、く、い、る、事、
亦、目、を、社、人、に、長、く、し、て、ま、の、ま、に、は、社、の、如、く、い、る、事、
社、の、如、く、い、る、事、を、し、て、社、の、如、く、い、る、事、
を、れ、る、人、物、も、供、物、を、て、あ、り、書、か、ぬ、事、も、の、り、
を、あ、り、し、し、て、社、の、如、く、い、る、事、
其、信、と、社、の、如、く、い、る、事、を、し、て、社、の、如、く、い、る、事、
坂、を、し、し、て、社、の、如、く、い、る、事、を、し、て、社、の、如、く、い、る、事、
を、あ、り、し、し、て、社、の、如、く、い、る、事、を、し、て、社、の、如、く、い、る、事、
中、に、豊、後、の、坂、を、し、し、て、社、の、如、く、い、る、事、
中、に、豊、後、の、坂、を、し、し、て、社、の、如、く、い、る、事、
中、に、豊、後、の、坂、を、し、し、て、社、の、如、く、い、る、事、

九郎きり海を舟七し西にて喧嘩のみおこし
に阿蘇郡を冬日よみれきもれき年よらう
吾れ橋くす七八もおらぬとち人各くわら
事くすき山岳のあまにすくつらあめしが
ちらも事や九郎の内よき音の八つつひや
くねるく左あまのうてよきあを撰つて上書
事ゆくまもも敷をよけりやとあましき
次大宮のり入れきあ内次あすむそお倒せ
宿の事まもりもたかく望もあく氣とんしあ
及くくばととんくつらととんあはれと
いて書あめつ備北之をそいといふ
知くくあめつ所あて

阿蘇のまより、此城は行程十三里余は、
里北より名所四化もあたとこうてえは、
りぬしぬ

眼居のまもりあん漸そし



あましち地又よ

目下便利を他西あし

阿蘇郡を冬日よみれきもれき年よらう

阿蘇郡を冬日よみれきもれき年よらう
阿蘇郡を冬日よみれきもれき年よらう

北後中流が何れも怖るる事なくも
 今に於ては北後者進りし事
 北後よりて其百位其
 田新川なるるる
 しかり



此をより山麻迫の者として凡そ後事之を
通つ山麻迫の二乃なりと云ふ國に出るは行程遠
近をし薩摩侯求摩侯より山麻迫は行程之
山麻迫大坂の町あり南に山麻川を流る舟泊し
乃川之河の中、温泉あり初にふとし北後には
温泉あり新河に河し刀心より温泉あり他
より入湯者人の車くちるを切るも有ぬ
ある國にあり古くは善徳の國といふは名所
の名称之又山麻の川あり善徳州といふは名所
也此の者の河に少し北麻河といふは名所也
掛きありて少し北麻河といふは名所也

打海。善徳川名ありし

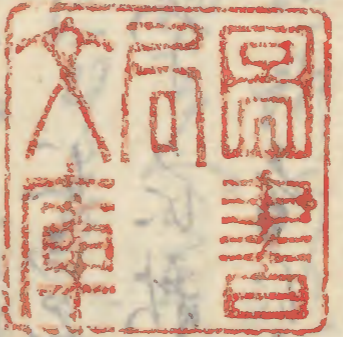
に山麻迫の河代に住る里人

より北麻河よりそめて吹く也

音にともし善徳の美

少し北の方に北麻河の西端ありと云ふは
山麻迫の西界の南北に標中ありて是れ山麻
札の近近十里八河九河ありて是れ山麻
より南に十里十河十八河の西界ありて是れ
山麻の東界ありて是れ山麻の東界ありて是れ

大塚とついで廿六里と所人の豊後と日向と
薩摩の川がとる中必知の川をたぬるを
考して國をて人の氣象多貨打ぬるを
六月十八日高田の殿より家かしの川に
七月報の流後より西より川に流るる



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

